



奥まで日光を 好きになる

ストーリー集

ストーリー集内の文章・写真・イラストについては、加工・修正・切り抜き等のご遠慮ください。

目次

contents

■奥まで日光を好きになるストーリー集について.....	2
■インタープリテーションとは.....	3
■「奥まで日光を好きになるストーリー集」の活用方法	5
■奥まで日光を好きになるストーリー 一覧	7
■ストーリー01 人と歴史	8
■ストーリー02 地形と自然	18
■ストーリー03 季節と風景	27
■日光エリアの代表的な資源.....	32
■フェノロジーカレンダー.....	33
■体験レイアウト.....	35
■日光エリアで体験してもらいたい16の体験.....	36
■お客様からの質問集.....	53
■日光エリアをさらに好きになる資料・文献集	
【参 考】.....	55
【ウェブメディア】.....	59
【書 籍】.....	60
【ガイドマップ】.....	60
【そ の 他】.....	60
■索引.....	61

奥まで日光を好きになるストーリー集について

日光国立公園日光エリアは、国際的な観光地として国内外より約6百万人(令和5年)の観光客を受け入れています。これらの国内外の観光客に、日光国立公園日光エリアならではの自然風景と、生活・文化・歴史が凝縮された物語(ストーリー)を知っていただき、忘れられない唯一無二の感動や体験を提供することが、より選ばれる地域となり、長く滞在いただくためには重要と考えています。

本書は、日光エリアのお客様をお迎えする「全ての関係者の皆様」に向けて、お客様にお伝えしたい、感じていただきたい、「日光らしさ」(日光国立公園日光エリアならではの魅力・価値やその背景にあるストーリー)を整理し、日光国立公園日光地域インタプリテーション全体計画として作成したものです。

これらの「日光らしさ」をお客様にお伝えする、それはガイドだけの仕事ではありません。ガイドが接するお客様は、日光エリアに訪れる6百万人のほんの一部です。日光エリアの宿泊施設、飲食店、お土産屋、ガイド、観光案内所、ビジターセンター、交通機関等、全ての観光事業者が、お客様に接するチャンネルを持っています。ただ、今は残念ながら、個々の事業者がバラバラに、地域の情報をお客様に伝えているのが現状です。

せっかく日光に足を運んでいただいたのなら、日光で知ってほしいことや体験してほしいこと、思い出として持ち帰ってほしい感動など、バラバラに伝えるのではなく、地域の魅力やストーリーとして共有し、地域みんなで伝えていきたいと考えています。その価値やストーリーが地域のブランド力にもつながっていきます。難しいことを言っているように感じるかもしれませんが、実は普段、観光事業者の皆様がお客様を相手にしていることについて、ほんの少し方向性をあわせ、それを地域の総力戦で進めていこうというものです。

地域の方々に親しみをもってもらいたくため、本書は「奥まで日光を好きになるストーリー集」と命名しました。「奥まで日光」は、観光客の方はもちろん、本書を手にとっていただいた観光事業者の皆様も含め、「日光から奥日光まで」好きになってほしい、「日光がもつ奥深い魅力や奥に隠れているストーリー」を知って好きになってほしいという思いを込めました。

本書の最終的な目的は「ストーリー集をつくること」ではありません。日光エリアの多くの観光事業者の方々に手にとっていただき、観光案内、ガイドプログラムづくり、特産品づくり、社内研修など、各事業者の方々の本業の中で、大いに「活用していただくこと」が重要です。そして、本書を完成版とせず、活用することで出てくる改善点や工夫等のアイデアを観光事業者の皆さまからいただき、反映させ、バージョンアップしていきたいと考えています。

最後に、日光エリアが持つ豊かな自然と文化的資源、その裏に隠された魅力的なストーリーをはじめとした多様な魅力を、地域の総力戦として、より多くのお客様に伝え、奥深い日光を知りたいと思っていただき、何度でも何世代にもわたり、国内外から日光エリアに訪れていただく、そんな日光エリアの未来につなげていきたいと願っています。

「奥まで日光」地域事務局一同

インタープリテーションとは

■ インタープリテーションは楽しくて 教育的なコミュニケーション

インタープリテーションは国立公園や世界遺産、ミュージアムなど、人々が楽しみを求めて訪れる場所での教育的なコミュニケーションです。「教育」といっても、勉強を強いるような意味ではなく、体験を楽しみながら魅力を感じ、地域の自然や文化、歴史などについての理解を深め、その場所との「つながり」を深めてもらおうとする活動です。

国立公園は保全の場であると同時に、観光客の訪問を歓迎する場所であるので、インタープリテーションは観光振興とも密接に関係しています。国立公園の中にはない観光施設、例えば、ワイナリーや庭園のような場所でもインタープリテーションの取り組みがあります。インタープリテーションは観光の質を高め、資源の保全と観光客満足向上を同時に実現することを目指します。

■ 「その場所らしさ」を探究し、共有する

インタープリテーションで特に大切にしたいのは「その場所らしさ」です。多くの場合、観光客は「その場所らしさ」を求めて観光地を訪れます。このことは自分が旅行するときのことを考えてみるとよくわかります。例えば、ヨーロッパの古都に旅行したら、地域特産のワインと食事を楽しみ、伝統的な風景の街を歩き、地域色豊かなお土産物を買いたいのではないでしょうか。

国立公園や文化遺産地域では、地域にある「ホンモノ」の自然や文化の価値や魅力を探求し、それを観光客と共有しようとするコミュニケーションが必要です。その取り組みによって、観光振興と資源の保全は同じテーブルに乗せて考えることが可能になります。

この計画書の中でも、日光国立公園の「その場所らしさ」の探究がたくさん試みられています。
※「その場所らしさ」あるいは「ホンモノ」を表す専門用語としては、オーセンティシティ(authenticity：真正性)という言葉があります。観光や遺産保全などの分野で多くの議論があります。

■ インタープリテーションの基本は、「ストーリー」と「体験」

インタープリテーションの基本的なアプローチはとてもシンプルです。地域資源に関する大切な「ストーリー」の共有と、楽しくて意義のある「体験」、この二つに集約することができます。「ストーリー」は現地でのコミュニケーションはもちろん、印刷物やホームページなどを通じて広く発信することができます。ガイドツアーなどのアクティビティは「体験」の提供です。また体験を直接提供しなくても、観光客への適切な情報提供によって、その場所らしいよりよ

い「体験」を促すことができます。

この2つの要素、体験とストーリーは相互に補完的でもあります(それぞれが、もう一方を強化する)。例えば、フライフィッシングの「体験」をしたときに、湯ノ湖にフライフィッシングが広まった「ストーリー」を知ることができたら、その体験はより特別なものになるはずです。あるいは湿原を歩く「体験」はそれだけで楽しいものだと思いますが、ジオストーリーを知ることにより深いものになるかもしれません。ですから、体験を提供するガイド事業者が「ストーリー」を知ることや、窓口案内の担当者が、日光らしい「体験」を理解していることも大切になります。

本計画の中では、このインタープリテーションの2大要素を、「奥まで日光を好きになるストーリー一覧」(ストーリー／7ページ)と、「日光エリアで体験してもらいたい16の体験」(体験／35ページ)として整理しています。

インタープリテーションにはたくさんのメディア(媒体)がある。だから全体計画。

奥日光地域でインタープリテーションに特化した拠点施設としては、日光自然博物館や湯元ビジターセンターなどがあります。そこには展示や動画、印刷物、案内カウンター、ガイドツアーやイベントなどのインタープリテーション・メディアが集約されており、地域のインタープリテーション推進における重要な役割を果たしています。このような、拠点施設を中心としたインタープリテーションの展開は、国立公園の施策やエコミュージアムの取り組みなど、世界中の公園や遺産地域に見られます(図1参照)。

一方、ここまで例示したように、インタープリテーションは拠点施設にとどまらず、様々なメディア(媒体)があります。例えば、民間事業者が行うトレッキングツアーやものづくり体験のような体験型プログラム、野外サイン、観光パンフレット、ホームページなどもインタープリテーションのメディアです。さらには、ホテルのカウンターでの案内や、お土産物屋さんの店先などコミュニケーションなども、ツーリストに日光らしい体験の促しができる案内の機会であり、重要なインタープリテーションの場であると言えるでしょう。

これらの場におけるコミュニケーションは、それぞれ所属や役割が異なる方が担当しますので、話されることがらも違う内容になるのは当然なのですが、地域を理解するために特に大切なストーリーや、来訪者にぜひ体験してほしいこと、つまり「日光らしさ」が、大枠で共有されていたならば、ツーリストとのコミュニケーションはより確実なものになっていくのではないのでしょうか。インタープリテーションに全体計画が必要な理由はそこにあります。

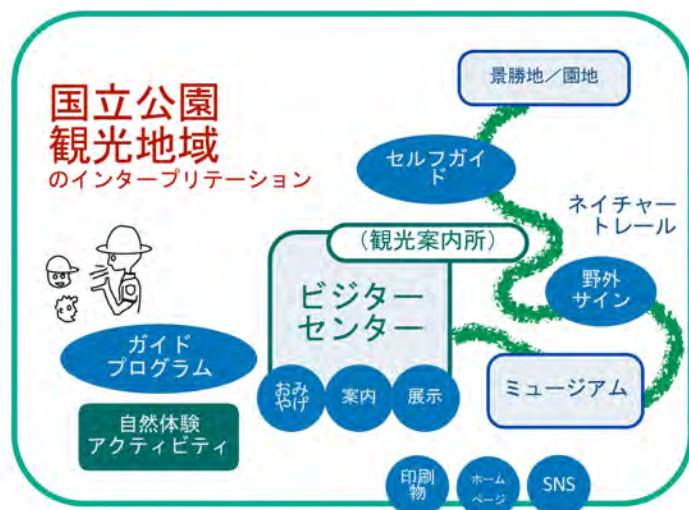


図1. 国立公園、観光地域におけるインタープリテーション全体のイメージ

「奥まで日光を好きになるストーリー集」の活用方法

「奥まで日光」地域事務局からのメッセージ

突然ですが、皆様もご自身の旅行を想像してください。

インターネットや観光情報誌だけでは見聞きできない、旅先ならではの情報を知り得たときって、とても嬉しくなりませんか？ 思わず周りに話したくなりませんか？

「奥まで日光を好きになるストーリー集」は、延べ200人以上もの地元・日光ファンの皆様からの、日光に関する貴重な情報や日光への愛を紡いだ参考書です。

この参考書を、従業員教育や観光PR、新たな商品・サービスの開発などでご活用いただくことで、日光らしさ(日光ならではの価値)やその体験の仕方を地元の全員がお伝えできるようになりたい、つまり、業種や地区にこだわらず地元の全員が胸を張って地元自慢できるようになりたい、と考えています。

そうすることで、きっと新たな日光ファンやリピーターが生まれ、地元の明るい未来に繋がっていくものと信じています。

■ 情報発信に関わる皆様

観光情報を発信するパンフレットやWEBサイトなどに、日光らしさ(日光ならではの価値)やその体験の仕方を掲載し、日光に来なければ味わえないモノ・コト・時間・感動を分かり易くPRしましょう。

● 具体的な活用案

- ・「奥まで日光を好きになるストーリー一覧」(7～31ページ)を、パンフレットやWEBサイトなどのデザインに反映する。
- ・「日光エリアで体験してもらいたい16の体験」(36～52ページ)を、パンフレットやWEBサイトなどで特集する。

■ 宿泊・飲食・交通に関わる皆様

お客様との何気ない会話やご質問への回答、お料理やそのしつらえなどを通じて、お客様に日光らしさ(日光ならではの価値)やその体験の仕方をお伝えし、日光に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動をお持ち帰りいただくための、ご案内窓口になりましょう。

● 具体的な活用案

- ・この参考書を、従業員教育の教材とする。
- ・「日光エリアで体験してもらいたい16の体験」(36～52ページ)を、ご自身の体験談としてお客様におススメする。

■ レジャー・ツアーガイドに関わる皆様

体験プログラムやガイドツアーなどを通じて、お客様に日光らしさ(日光ならではの価値)をお伝えし、日光に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動をお持ち帰りいただくための、一番の担い手になりましょう。

また、それらの価値をお伝えできる資源の大切さをお客様にご理解いただき、資源を保全・継承していくための、お手伝いをしましょう。

● 具体的な活用案

- ・「奥まで日光を好きになるストーリー一覧」(7～31ページ)や「日光エリアで体験してもらいたい16の体験」(36～52ページ)を、体験プログラムやガイドツアーなどに反映する。

■ お土産に関わる皆様

お土産やそのパッケージなどを通じて、お客様に日光らしさ(日光ならではの価値)をお持ち帰りいただき、日光に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を、ご家族やご友人にお裾分けいただくための、お手伝いをしましょう。

● 具体的な活用案

- ・「奥まで日光を好きになるストーリー一覧」(7～31ページ)や「日光エリアで体験してもらいたい16の体験」(36～52ページ)を、商品開発やパッケージデザインなどに反映する。

■ 行政の皆様

地元の全員が、お客様に日光らしさ(日光ならではの価値)やその体験の仕方をお伝えしやすくなるように、また、日光に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動をお持ち帰りいただくための一翼を担い易くなるように、この参考書や地元の商品・サービスなどを磨き上げていくための、お手伝いをしましょう。

また、それらの価値をお伝えできる資源の保全・継承に取り組む文化を、率先して創っていく役割を担いましょう。

● 具体的な活用案

- ・この参考書や地元の商品・サービスなどを磨き上げていくための集会を、定期的で開催する。
- ・資源の保全・継承に積極的に取り組む。

奥まで日光を好きになるストーリー 一覧

インタープリテーション全体計画の核心部分とも言えるのが、このページにまとめられている「奥まで日光を好きになるストーリー」です。これらのストーリーは、日光エリアの目には見えない価値や、他地域にはない日光ならではの魅力をお客様と共有するために、ワークショップでの議論を重ねてつくられました。

ここでは、日光を訪れた人に知ってほしい地域の魅力や、体感してほしい日光ならではの価値、伝えたい「日光らしさ」について、それらの背後にある「ストーリー」を整理し、一覧にまとめています。

日光ならではの価値を伝える「奥まで日光を好きになるストーリー」として、大きな3つのストーリーと、それぞれさらに具体的に日光らしさを表す、21のサブストーリーを設定しました。

以下は、それぞれのストーリーを表したタイトルです。日光の魅力を深く知るために「人と歴史」から始まり、「地形と自然」、そして「四季と風景」へと進む構成になっています。馴染みのある歴史から奥へと足を延ばし、大自然の営みや四季の変化を感じる旅へ。日光の入り口から奥へ進むように物語の奥行きを楽しんでください。

ストーリータイトル ① 人と歴史：自然とともに刻まれた人々の営み

サブストーリータイトル

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1-1 修験道と山岳信仰 | 1-6 祭りと伝統が紡ぐ日光の魅力 |
| 1-2 自然と調和する歴史と文化の融合 | 1-7 異文化が交差した湖と魚の歴史 |
| 1-3 道が育む交流と文化の発展 | 1-8 世代をつなぐ日光の特別な思い出 |
| 1-4 信仰と国際交流が織りなす宿と施設 | 1-9 地域文化を味わう食 |
| 1-5 温泉と癒しの文化 | |

ストーリータイトル ② 地形と自然：火山が紡いだ大地と生態系の魅力

サブストーリータイトル

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 2-1 火山と水が織りなす風景 | 2-5 自然環境が支える多様なアクティビティ |
| 2-2 滝と清流が描く自然の芸術 | 2-6 多種多様な野生動物との出会い |
| 2-3 自然が描く湿原と草原の物語 | 2-7 日光で考える、自然と共生する未来へのヒント |
| 2-4 地質と地形が育む多様な景観 | 2-8 自然のリズムと星空が紡ぐ癒しの時間 |

ストーリータイトル ③ 季節と風景：四季が彩る日光の絶景

サブストーリータイトル

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 3-1 山肌を花々が彩る「春」 | 3-3 標高差が織りなす紅葉の「秋」 |
| 3-2 大自然の涼しさを感じる「夏」 | 3-4 氷と雪を楽しみ尽くせる「冬」 |

01

Story

人と歴史

自然とともに刻まれた人々の営み

自然と調和した信仰と暮らしの物語

日光は、しょうどうしょうにん勝道上人によって開かれた修験道の聖地として、1200年以上の歴史を刻む特別な場所です。彼が切り拓いた道は、後に信仰の地として広がり、自然と調和した二社一寺や古道、独自の食文化や工芸を生み出し、地域の魅力を際立たせています。せんじょう が はら戦場ヶ原には神々が戦った伝説が残されています。さらに、とくがわいえやす にっこうとうしょうぐう徳川家康が日光東照宮に祀られたことで、全国から人々が訪れる地となり、とうしょうぐう東照宮の建立後、近代日光は国際観光地へと発展し、今日では祭りや伝統行事がその豊かな歴史を伝える役割を担っています。神聖な空気が満ちるこの地は、多くのパワースポットと言われる場所が存在し、今でも多くの人々が訪れています。

※二社一寺とは、日光東照宮、日光二荒山神社、日光山輪王寺の2つの神社、1つの寺院の総称です。
あわせて「日光の社寺」としてユネスコの世界文化遺産に登録されています。



修験道の道しるべ「金剛童子像」

日光連山は、2万年以上前の火山活動によって形成された壮大な地形と、それに育まれた豊かな自然によって成り立っています。日光開山の祖といわれる勝道上人(奈良時代後半に活躍した名僧)は、その険しい山々に挑みこの地を開きました。その足跡は現在の登山道へと受け継がれ、登山者たちは知らず知らずのうちに古の修験者たちの歩んだ道をたどっています。かつて奥日光は女人禁制とされ、女性の立ち入りが制限されていましたが、今ではその門戸が開かれ、誰もが自由にその自然と信仰の歴史に触れることができます。日光の山々は、自然と信仰が融合した特別な景観を今日に伝えています。

ストーリーを伝えるための場所や体験

男体山登拝祭

- 男体山は山自体が信仰の対象となっており、山頂には日光二荒山神社の奥宮があります。
- 毎年夏には夜間、登山を行う登拝祭が行われ、多くの参拝者が山頂でご来光を拝みます。1200年以上も連綿と受け継がれる、壮大な自然に対しての祈りを今に伝えています。



登拝祭で夜間登山に臨む

中禅寺立木観音

- 勝道上人が男体山頂を極め湖畔に中禅寺を建立し、小舟で湖畔巡拝の際、湖上に輝く千手観音が現れ、上人は境内にあった桂の大木に立木のまま千手観音を彫り上げました。(立木観音は、中禅寺の本尊)
- 船禅頂は、上人が巡拝した旧跡を巡る行事で、一般の方の参加も可能です。(要予約)。



立木観音



船禅頂

女人堂

- かつて女人禁制とされた奥日光に赴くことのできない女性たちが男体山を拝した、第一いろは坂のたもとに位置する遥拝所(遠く離れたところから神仏などを拝むために設けられた場所)です。



カタクリの咲く女人堂



男体山登拝祭

日光の二社一寺をはじめとする歴史的建造物は、背後に広がる日光連山の自然と信仰の歴史が一体となり、独特の文化的景観を形成しています。山岳信仰の修験の地として1200年以上の歴史を刻む日光山には、神仏が宿り、自然と祈りが織りなす物語が息づいています。その後、日光東照宮が建立されると信仰地は社参の地としての側面をもつようになり、伝統と新しい文化が融合する独自の魅力を生み出しています。

ストーリーを伝えるための場所や体験

日光東照宮

- 江戸時代、初代將軍徳川家康の御霊を祀るために建立されました。
- 日光東照宮をはじめ二社一寺は、「日光の社寺」として世界文化遺産に指定されています。日光国立公園は世界遺産登録地を含んでいる国立公園なのです。



東照宮陽明門

日光山輪王寺

- 勝道上人によって建立された、山岳信仰の場として栄えた日光山の寺院です。
- 古くから多くの行者が訪れた境内には、日光三山に見立てた3体の仏像を祀る三仏堂をはじめ、数多くの史跡が修験道の歴史を今に伝えています。



三仏堂(所有：日光山輪王寺)

日光二荒山神社

- 1200年以上前に開かれた、日光山の信仰の始まりとなった神社です。
- 男体山をご神体として祀り、古くから日光の自然に対する人々の信仰を集めています。



二荒山神社本社

日光への道は、修験道の聖地としての歴史とともに育まれてきました。1200年以上前の日光開山をきっかけに形成され、その後、全国からの参詣者を迎え入れる重要な道となりました。近代には、鉄道の開通や路面電車、ケーブルカーの設置など、交通網が発展し、より多くの人々が訪れるようになりました。現在の国道や主要道路は、東京からの日帰り観光にも便利なアクセスを提供し、多



いろは坂の旧道を通るバス



日光軌道線

くの旅行者を迎えています。また、いろは坂をはじめとする道路は、ドライブやバイクツーリング、自転車での走りを楽しむ人々にも人気があり、尾瀬へと続く道でもあります。これらの道は、時代を超えて人々を日光へと誘う大切な役割を担い続けています。

ストーリーを伝えるための場所や体験

いろは坂と日光

- 古来、聖地を結ぶ神聖な道として女性と牛馬の立ち入りが禁じられていましたが、日光地域の国際観光地化に伴い多くの人々が訪れる観光道路として整備が進みました。
- かつてはふもとの馬返しまで日光駅から路面電車が走っており、現在は東武日光駅前広場で当時の車両を見ることができます。



日光軌道線で使われた車両



自動車の通行用に整備された第2いろは坂

日光杉並木を歩く

- 世界一長い並木道として知られる、日光東照宮の参道並木として江戸時代に植樹された並木道です。
- 近隣に多くの史跡がみられ、江戸時代の一大参詣地としての日光の歴史を感じることができます。



日光杉並木の昔と今



かつての中禅寺湖畔の旅館

日光の宿泊施設には、信仰と国際観光地としての発展が溶け込んでいます。修験道から始まる歴史を背負いながら、古くからは信仰の地として、さらに近代化により国際観光地として栄えた日光。二社一寺周辺や中禅寺湖畔の由緒ある宿やその足跡、大使館別荘は、国際観光地としての歴史を象徴する空間であり、自然と共に過ごす贅沢な時間を提供しています。また、現在の英国大使館別荘記念公園では、当時の避暑地文化を感じながら、湖を眺めつつ英国風のティータイムを楽しむことができます。

ストーリーを伝えるための場所や体験

鉢石町の史跡を巡る

- 古くから多くの観光客が訪れた二社一寺周辺の鉢石町には、現存する日本最古のリゾートホテルとして知られる日光金谷ホテルをはじめ、国際観光地として栄えてきた日光を象徴する数多くの史跡にふれることができます。



日光金谷ホテル

中禅寺湖畔の別荘跡地を巡る

国際避暑地記念施設

- 現在は英国大使館別荘とイタリア大使館別荘がそれぞれ大使館別荘記念公園として保存されており、各国の文化や国際避暑地の歴史にふれることができます。



西六番園地に残るマンツルピース



イタリア大使館別荘記念公園

西六番園地

- 明治時代の貿易商トーマス・グラバーの別荘として建てられ、後に東京アングリングアンドカンツリー倶楽部のクラブハウスとして使われました。現在も残るマンツルピースなどの遺構から、当時の国際社交場の雰囲気を感じることができます。



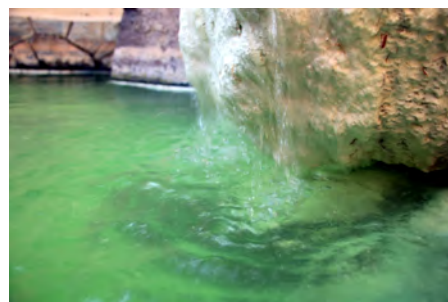
日光湯元温泉の源泉

日光の温泉は、火山活動によって生まれた特異な地形と豊富な水の恵みが育んだ癒しです。奈良時代から続く由緒ある湯元温泉の白濁の硫黄泉は、古来より人々を魅了し惹きつけています。また、中禅寺エリアへ湯を運ぶ10km以上にも及ぶ歴史ある湯導管、さらにはお寺で温泉を楽しむことができる温泉寺など、日光の温泉文化は多様な魅力に満ちています。冬には、雪の積もる湯ノ湖の奥から漂う湯元温泉の硫黄の香りと美しい湖面が、訪れる人をむかえてくれます。日光で春の花々、新緑、紅葉、雪景色を眺めながら温泉に浸かる時間は、まさに至福のひとつときといえるでしょう。

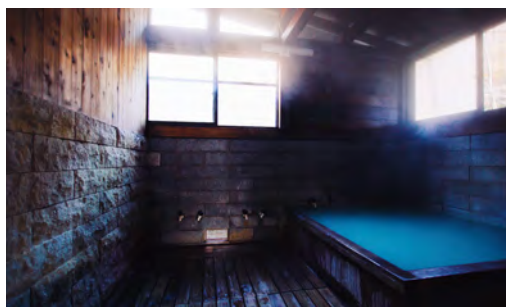
ストーリーを伝えるための場所や体験

日光湯元温泉の硫黄泉につかる

- 湯ノ湖の北岸に位置する湯元温泉は、1200年もの歴史を持ち、日本有数の濃度の硫黄泉で知られています。四季折々の豊かな自然に囲まれた中での入浴を楽しむことができます。



日光湯元温泉の硫黄泉



浴場

日光山温泉寺

- 日光開山の祖、勝道上人が温泉を発見し、病苦を救う薬師如来を祀ったことから始まった寺院で、全国でも珍しい、参詣の際に温泉につかることができる寺院として知られています。



外観



参道

季節ごとの祭りや行事は、地域の歴史と伝統を後世に伝える重要な役割を果たしています。弥生祭では、色鮮やかな花家体が巡行し地域の人々が一体となります。夏の夜には、日光和楽踊りの伝統のリズムに合わせた舞いが、人々を魅了します。



弥生祭の名刺交換



花家体の繰り込み

百物揃千人武者行列では、歴史絵巻を思わせる壮麗な行進が日光東照宮を背景に繰り上げられます。これらの祭りは、地元の自然と文化が融合した壮大なイベントであり、地域の歴史と伝統を感じさせるだけでなく、訪れる人々にも深い感動を与えます。祭りを通じて、日光の魅力が広く伝えられ、自然と文化が調和する特別な体験を提供しています。

ストーリーを伝えるための場所や体験



灯りが灯る花家体

弥生祭 (毎年4月13日～17日に開催)

- ヤシオツツジを模した造花に彩られた「花家体」が巡行し春の訪れを告げる、1200年の格式ある華やかな祭です。

百物揃千人武者行列 (毎年5月18日及び10月17日に開催)

- 徳川家康の神霊を静岡の久能山から日光へ移した際の行列を再現した祭です。
- 春と秋の二回執り行われ、きらびやかな行列が参道を厳かに進みます。



参道を進む千人行列



和楽池を囲んで踊りを楽しむ

日光和楽踊り (毎年8月第一金曜日に開催)

- もとは大正時代、日光電気精銅所(現 古河電気工業)の従業員慰労のために行われた祭です。
- にぎやかな歌と踊りは百年以上もの間脈々と受け継がれ、地域の人々をつないできました。



湯川でのフライフィッシングの様子

涼しい気候と美しい景観に包まれた中禅寺湖の湖畔には、明治以降に大使館別荘が建ち並び、外国人たちが集う国際避暑地として発展してきました。その中で、かつて生息していなかった魚を湯ノ湖や中禅寺湖に西洋人が持ち込むことにより、湯川は日本におけるフライフィッシングの発祥地となるなど独特の文化を形成してきました。こうして奥日光は、自然と文化が交錯する特別な場所となり、今でも訪れる人々に静かで優雅な時間を与え続けています。

ストーリーを伝えるための場所や体験

湯川でフライフィッシングを楽しむ

- 日本のフライフィッシング発祥の地、湯川では現在も雄大な戦場ヶ原の自然に囲まれながらフライフィッシングを楽しむことができます。
- 解禁時期は5月～9月で、日光以外ではほとんど出会えないブルックトラウトをはじめとしたマスの仲間に出会うことができます。



湯滝と釣り人



遡上するヒメマス

ヒメマスの泳ぐ中禅寺湖

- 明治時代、中禅寺湖に移入されたヒメマスは、奥日光の自然環境に適応してきました。
- 産卵のため湯川に遡上する姿は「中禅寺湖の紅葉は水の中から始まる」と言われるほどに、秋の風物詩にもなっています。
- 美味であることから盛んに漁獲され、地域の食文化をも形成してきました。



世界遺産地区の参道の様子

日光は、小中学校の修学旅行で訪れる学びの地として全国的にも知られた特別な場所です。その記憶は多くの人々にとって初めて自然や歴史と深く触れ合う体験として刻まれており、大人になり、家族を連れて再訪することで、かつての体験を世代を超えて共有することができます。こうした修学旅行をきっかけに再び訪れる文化が根付いているのは、全国的にも珍しく、日光ならではの魅力です。記憶と新たな発見が交錯する特別な旅が、世代間の絆をさらに深めてくれます。

ストーリーを伝えるための場所や体験

首都圏から訪れることのできる世界遺産

- 日光の社寺は、自然と調和したたたずまいと、その後の建築様式に多くの影響を与えた建築技術を評価され世界文化遺産に登録されています。
- 東京の礎となった江戸幕府との深い関わりをもつ場所でもあり、自身に身近な歴史や文化財について学習を深めることのできる場所として、首都圏を中心に多くの修学旅行生が訪れます。



日光二荒山神社を訪れる修学旅行生



戦場ヶ原をハイキングする修学旅行生

戦場ヶ原の自然散策

- 火山活動による様々な景観を有する奥日光はその土地の成り立ちから、理科の「大地のつくりと変化」などの単位について、体験を通じて学ぶことのできる場所です。
- 戦場ヶ原は遊歩道が整備され、小学生であっても安全に散策することができ、手軽に自然環境について学ぶことができます。



日光の湯波

日光の食は、豊かな自然が生んだ恵みと伝統の技が織りなす特別な文化です。湯波や山菜を使った料理は、修験道の歴史と共に受け継がれ、現代に新たな形で伝えられています。さらに、日光の清らかな水が生み出す日本酒や、伝統の味を守り続けるようかんも、旅の楽しみの一つとなっています。中禅寺湖のヒメマスや天然氷を使ったかき氷、日光HIMITSU豚や霧降高原牛、ヤシオマス、山椒などの地元の味覚が、訪れる人々を魅了します。食べ歩きが楽しめる日光駅周辺も、食文化の一端を担っています。

ストーリーを伝えるための場所や体験

修験道がルーツの食文化を堪能する

- 日光の名物である湯波は、もとは肉食が禁じられている修験者たちの貴重なたんぱく源です。
- 塩漬けの志そ巻き唐辛子は、行者が山での修行にあたり体を温め、塩分を補給するために食べられてきました。



修験者の様子

湖畔の飲食店で鱒のソテーを味わう

- 明治時代、中禅寺湖畔をはじめ外国人向けの保養地として発展した日光では、洋食文化が花開きました。
- 特に鱒のソテーは、日本の食材や調味料を用いたうえで西洋人の口に合うように開発されたもので、日光ならではの地域文化を今に伝える逸品であるといえます。



醤油風味の鱒のソテー

02

Story

地形と自然

火山が紡いだ大地と生態系の魅力

火山活動が生み出した多様な地形が育む自然の豊かさ

日光の地形は、火山活動によって形成された日光連山や中禅寺湖、戦場ヶ原などが織りなす壮大な自然の舞台です。湧水や清流が豊かな生態系を育み、四季折々に変化する風景は訪れる人々を惹きつけます。その景色の中心には日光連山の父である男体山の存在が強く感じられます。またその地形は、地域の文化や暮らしにも影響を与え、自然と人が調和した物語を今に伝えています。氷瀑や紅葉など、特異な地形が生む美しい景観は、日光の神秘的な魅力を象徴しています。



半月山からの中禅寺湖と男体山

日光の湖や湿原、滝などの景観は、太古から続く火山活動によって形作られました。男体山の麓にはその噴火でせき止められた、4平方キロメートル以上の大きさの天然の湖では最も高い標高に位置する中禅寺湖とそこから流れ落ちる迫力ある華厳滝、湖の奥には湿原化した戦場ヶ原が広がり、その豊かな水が織りなす風景が魅力です。標高差が生む多様な景観は、季節や時間、特に男体山は見る角度によっても変化し、訪れる人々を飽きさせません。これらの特異な地形は、生態系や文化、暮らしの基盤でもあり、日光の壮大な自然の物語を今に伝えています。

ストーリーを伝えるための場所や体験

火山と水が創った日光の景観を

一望できる展望台

- 明智平展望台からは男体山とその麓に広がる中禅寺湖、そこから流れ落ちる華厳滝など、火山活動によって形作られた奥日光の複雑な地形を一望できます。
- 半月山展望台からは、そびえ立つ男体山とそのふもとに広がる中禅寺湖、さらにその先の戦場ヶ原の様子を見渡すことができます。



明智平付近からの華厳ノ滝と中禅寺湖

標高差が生む多様な景観を

楽しめるいろは坂

- 馬返しから明智平まで、全体で440mの標高差があるいろは坂では、標高により移り変わる紅葉のグラデーションをはじめ、日光地域の標高差が生む多様な景観の移り変わりを実感できます。



第2いろは坂の紅葉

日本百名山に選ばれる

男体山・日光白根山・皇海山

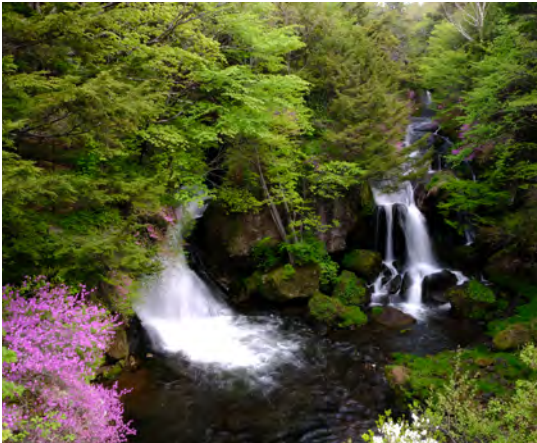
- 登山家であり小説家でもあった深田久弥氏が実際に登頂した山々を基に選んだ「日本百名山」のうち、日光エリアからは男体山と日光白根山そして皇海山が選ばれています。



日光白根山の山頂から眺める男体山と中禅寺湖

地形と自然 2-2

滝と清流が描く自然の芸術



トウゴクミツバツツジの咲く竜頭ノ滝

日光の滝や川は、火山活動によって作られた急峻な地形と、豊富な湧き水が生み出した自然の芸術です。水は山に蓄えられ、後に湧き出て、湯ノ湖、戦場ヶ原、中禅寺湖と三つの段差を形取った大地を旅するように流れます。その段差をつなぐのは、豪快な湯滝、優雅な竜頭滝、荘厳な華厳滝の三つの滝です。それ以外にも日光には霧降滝や裏見滝など、迫力や優美さを兼ね備えた名瀑が点在し、四十八滝と呼ばれる多くの滝には信仰に基づく名前を持ったものも多くあります。滝と清流は、自然と信仰が調和した日光ならではの景観を象徴しています。

ストーリーを伝えるための場所や体験

迫力や優美さを味わえる名瀑

けごんのたき 華厳滝

●中禅寺湖から流れ落ちる落差97mの迫力ある姿は、周囲の岩盤からの伏流水である十二滝とともに優れた景観を作り出しています。

うらみのたき 裏見滝

●古くは修験の場として知られ、江戸時代、松尾芭蕉をはじめ多くの人々が訪れました。滝の裏には不動明王が祀られており、自然と信仰の調和した姿を今に伝えています。



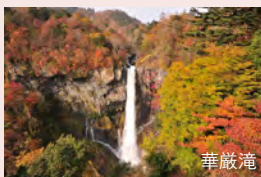
きりふりのたき 霧降滝

●葛飾北斎の浮世絵にも描かれた名瀑です。名前の由来にもなった、水が岩に当たり霧が降るかのように飛び散り流れ落ちる様子からは、力強さと同時に優美さを感じることができます。



所蔵…すみだ北斎美術館

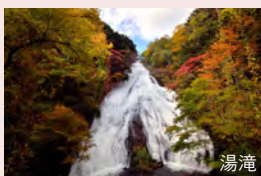
日光五名瀑



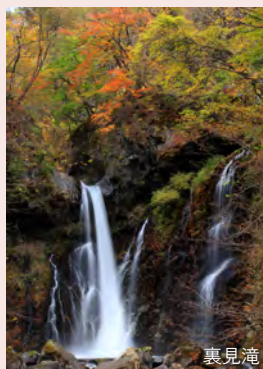
華厳滝



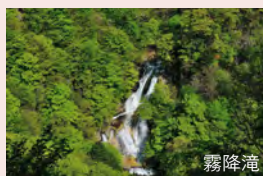
竜頭滝



湯滝

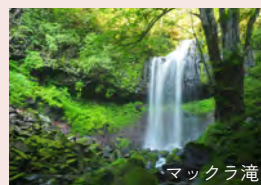


裏見滝



霧降滝

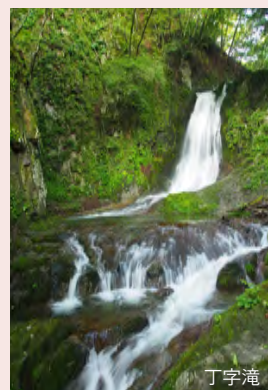
霧降隠れ三滝



マックラ滝



玉簾滝



丁字滝



空から見た戦場ヶ原

標高が高く寒冷な奥日光では、戦場ヶ原や小田代原^{おだしろはら}に代表される広大な湿原と草原が広がります。これらの景観は火山活動で形成された特異な地形に由来し、多様な植生と野鳥の生息地となっており、奥日光の湿原として、2005年にラムサール条約湿地にも登録されています。湿原、草原、川、森が狭い範囲に凝縮し、四季折々に違う表情を見せる自然の宝庫となっています。早朝や夕方には、四季や時間の移り変わりでも思いもよらぬ自然の変化に遭遇し、刻々と変わる景色のグラデーションに息を吞みます。また、短時間で歩いて湿原や草原を楽しめる手軽さも奥日光ならではの魅力です。

ストーリーを伝えるための場所や体験



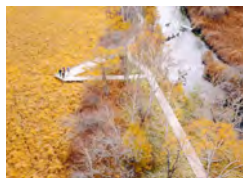
戦場ヶ原をハイキングする

戦場ヶ原を歩いて散策する

- 男体山の噴火により川がせき止められてきた湖に、その後の噴火の軽石層がたまり、植物の泥炭によって形成された湿原です。
- 周辺には散策路が整備され、気軽に湿原の景観を楽しむことができます。



初夏の戦場ヶ原



黄葉の進む戦場ヶ原と朝霜



雪景色の様子

小田代原^{おだしろはら}で植生観察をする

- 湿原から草原に移り変わる過程にあり、湿原と草原の両方の特徴を備えていることから、他に類を見ない植生と景観を観察できます。
- アヤメやノアザミ、ホザキシモツケなどの草花や貴婦人と呼ばれるシラカバの木がシンボルです。



ノアザミの咲く小田代原



ホザキシモツケ



草紅葉の進む小田代原



早春と冬のの小田代原

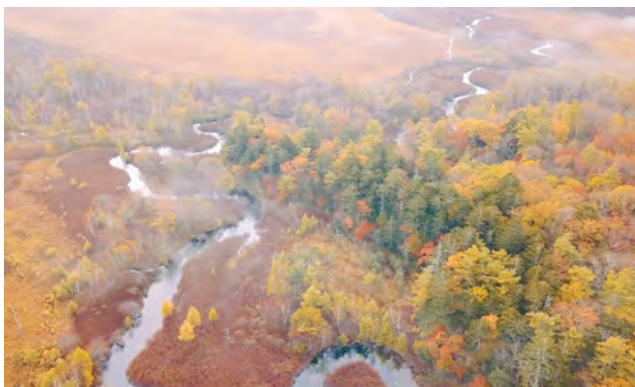




日光白根山頂からの奥日光

日光の地形は、日本海側と太平洋側の気候が交わる地理的条件と、火山活動による地質が組み合わさり、多様な景観を作り出しています。戦場ヶ原周辺には気候の境界線があり、それぞれの気候に適した植物が生育しています。いろは坂を下ると実感できる標高差の大きい地形は、豊富な水とともに多種多様な植物を育み、学術的にも貴重な生育地を形成しています。日光の地形は、自然が生み出した奇跡の舞台といえます。

ストーリーを伝えるための場所や体験



夏の様子



草紅葉が進む

多様な植生がみられる戦場ヶ原

- 戦場ヶ原は日本海側と太平洋側の気候帯の境界に位置しており、双方の気候帯に生育する植物を観察することができます。

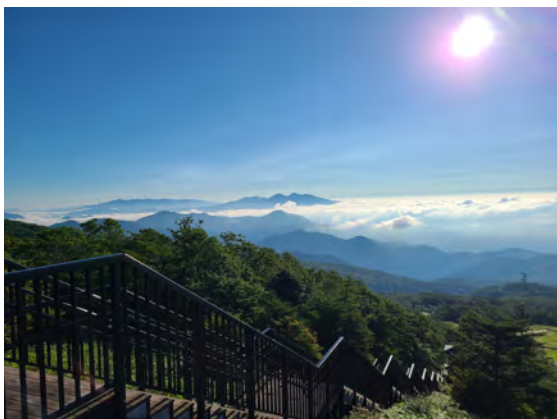


アカヌマフウロ



泉門池

霧降高原・キスゲ平の雲海と植生



霧降高原の朝

- 標高1000mをこえ、関東平野を見渡すことのできる霧降高原では、平野の湿った大気が雲になることでたびたび雲海を見ることができます。



ニッコウキスゲの咲く霧降高原

- 霧降高原ではニッコウキスゲをはじめとした山地の植物や、人の手が入ることで維持される草原の植生を観察することができます。



戦場ヶ原でのガイドツアー

日光は、四季折々に異なる表情を見せる自然の中で、身近に自然と一体となれる多彩なアクティビティを楽しむことができます。ハイキング、SUP、カヤック、トレッキングやスノーシューなど、春夏秋冬それぞれの季節でしか味わえない特別な時間が広がります。日光の四季と共に体験するアクティビティは、自然ととことん遊ぶ、身をまかせる、たわむれる、一体となることが出来、訪れる人々にワクワクする冒険を提供してくれます。

ストーリーを伝えるための場所や体験

戦場ヶ原のハイキング

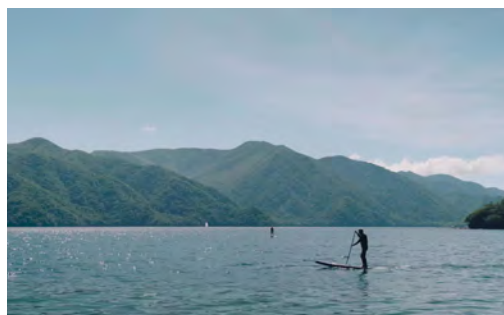
- 戦場ヶ原や湯ノ湖畔をはじめ、奥日光には多様なハイキングルートが整備されており、5～6月ごろにかけワタスゲやレンゲツツジ、ズミなどの花々が咲く新緑の中、ハイキングを楽しめます。



ズミの咲く戦場ヶ原をハイキング

中禅寺湖でのSUP、カヤック

- 中禅寺湖は穏やかで水も澄んでおり、SUPなどのパドルスポーツに向いています。男体山をはじめとした周囲の雄大な景観の中、湖上でのんびりと過ごすことができます。



中禅寺湖でSUPを楽しむ

湯元温泉付近でのスノーシュー

- 湯元温泉付近をはじめ、奥日光には冬季になるとスノーシューを楽しめる多数のルートがあり、冬ならではの自然を堪能できます。



湯元温泉のスノーシュー専用コース

地形と自然 2-6

多種多様な野生動物との出会い



ニホンジカ



ニホンザル



ニホンカモシカ



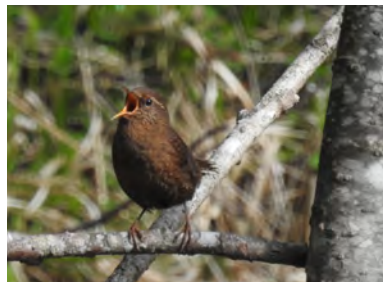
ツキノワグマ

日光は、野生動物との距離が近い自然の宝庫です。クマ、シカ、サル、カモシカなど40種以上の動物、オオルリ、キビタキ、オオジシギなど190種以上の野鳥たち、多くの昆虫や両生類などによる豊かな生態系が訪れる人々を魅了します。人と近い距離で多種多様な動物たちが暮らす環境は、自然の多様性を象徴しています。

ストーリーを伝えるための場所や体験

戦場ヶ原でバードウォッチング

- 湿原、河川、森林と多様な環境がまとまっている戦場ヶ原周辺は多くの野鳥が訪れる場所として知られています。散策路も多く見晴らしの良い平原はバードウォッチングに最適で、多くの野鳥を観察することができます。



ミンサザイ



ノビタキ

雪上のアニマルトラッキング

- 冬の積雪が多く、シカやサルなどの野生動物が数多く生息する奥日光では、雪上の足跡などから野生動物の行動観察を行うアニマルトラッキングが楽しめます。



雪上に残った動物の足跡



ニホンザルが木の皮を食べる

奥日光ナイトサファリ

- 日光自然博物館が主催する奥日光ナイトサファリでは、夜間活動する野生動物たちの様子を低公害バスの車中から観察することができます。



バスの車内からライトを照らしニホンジカを探す

地形と自然 2-7

日光で考える、自然と共生する 未来へのヒント



ウラジロモミの樹皮を食べるニホンジカ

日光は、自然と共に生きる大切さを学ぶ特別な場所でもあります。火山地形が生み出した多様な生態系や、身近に感じられる野生動物とのつながりは、自然の魅力とその重要性を実感させてくれます。一方で、ニホンジカの増加による食害や外来種の問題など、環境保護の課題にも直面しています。修学旅行やガイドツアーを通じて、こうした自然との関わりを深く学ぶことは、未来の環境を守るための意識と行動を育む貴重な機会となります。

ストーリーを伝えるための場所や体験

戦場ヶ原のシカ柵

- 戦場ヶ原では、ニホンジカの増加による湿原植物の食害が問題視されており、シカの侵入防止柵が設けられています。
- 単なる自然散策にとどまらず、シカの侵入防止柵と食害の現状を知ること、野生動物との共存と希少な自然環境の保護について深く学ぶことができます。



シカ侵入防止柵の出入り口と網

日光湯元ビジターセンター

- 奥日光の自然環境をはじめ、自然と人との深い関わりによって成り立ってきた地域としての日光について知ることができます。



奥日光の歴史と自然がわかる展示



戦場ヶ原の星空

日光の大自然は、日常の喧騒から離れ、心と体をリフレッシュさせる特別な場所です。標高が高く、邪魔するものがない戦場ヶ原から見る満天の星は訪れる人々に静寂と感動を与えてくれます。また、湖畔や湿原でのんびりと過ごし、自然のリズムに身を委ねる時間は、日常を忘れさせる贅沢なひとときになります。星空と自然が織りなす癒しの時間は、日光ならではの魅力です。

ストーリーを伝えるための場所や体験

さんぼんまつえんち 三本松園地

- 標高が高く、周囲が開けた平原である戦場ヶ原に位置する三本松園地では、人工照明に邪魔されることのない美しい星空を楽しむことができます。



晩秋の三本松園地

ゆのこ 湯ノ湖

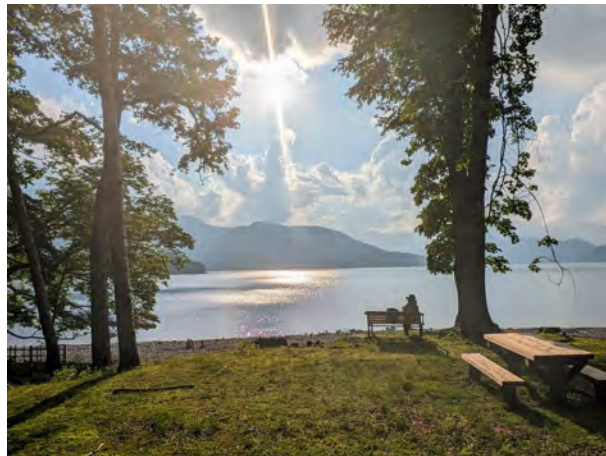
- 周囲に人工物の少ない湯ノ湖では、風のない穏やかな日には水面に映りこむ星空を眺めることができます。



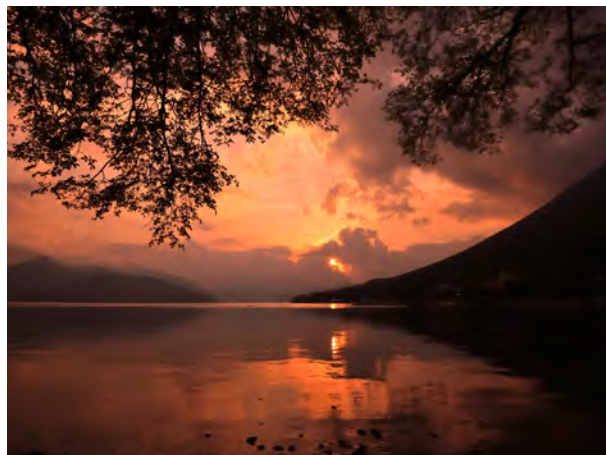
空から見た湯ノ湖

中禅寺湖畔で朝日・夕陽を見る

- 大きく開けた景観の中禅寺湖では、満天の星だけでなく、日の出・日の入りの時間には湖と太陽の織りなす神秘的な光景を眺めることができます。



イタリア大使館別荘記念公園からの夕方



中禅寺湖の夕焼け

03

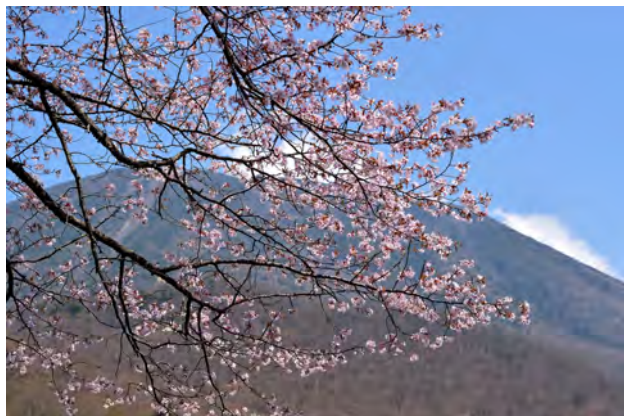
Story

季節と風景

四季が彩る日光の絶景

季節が描き出す日光の多彩な表情

日光は、春夏秋冬どの季節に訪れても美しい場所です。春の花々や新緑、夏の涼やかな風、秋の紅葉、冬の雪景色など、四季の美しさを存分に楽しむことが出来ます。標高差による長期間の紅葉や氷瀑など、季節ごとの特徴的な景観が特徴的で、訪れるたびに新たな感動を与えてくれます。四季は祭りや地域文化にも影響し、自然と歴史が交差する日光ならではの体験をさせてくれます。



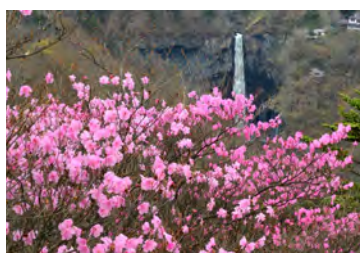
千手ヶ浜のオオヤマザクラ

春の日光は、アカヤシオ、シロヤシオなどの花々の彩りが美しい景観を作り出してくれます。他の季節では初夏にズミやニッコウキスゲが湿原や山肌を彩り、希少なホザキシモツケやシラネアオイがこの地特有の生態系を象徴しています。また弥生祭は、日光に春の訪れを告げてくれる華やかな伝統行事として、地域の歴史と文化を今に伝えています。

ストーリーを伝えるための場所や体験

中禅寺湖のアカヤシオ、シロヤシオ

- 中禅寺湖をはじめ、日光の各所でみられるアカヤシオ、シロヤシオ、トウゴクミツバツツジなどのツツジ類が、春、新緑の時期に花をつけ、山々を色とりどりに彩ります。



アカヤシオと華厳ノ滝



シロヤシオの花



ホザキシモツケ



ワタスゲの穂が広がる戦場ヶ原

戦場ヶ原のホザキシモツケ

- 冷涼な湿地帯を好むホザキシモツケは、生育に適した戦場ヶ原で大きな群落を形成しています。
- 木道脇には湿原を代表するワタスゲやハクサンフウロ、アヤメなどの色とりどりの草花が見られます。

日光白根山のシラネアオイ

- 日光白根山にちなんで名づけられた日本固有の高山植物で、美しい薄紫色の花をつけます。
- シカによる食害の影響が大きく、栃木県のレッドデータリストでは絶滅危惧種に指定されています。



シラネアオイの花



日光白根山にある群生地



中禅寺湖畔にあるイタリア大使館別荘記念公園

夏の日光は、標高の高さとひんやりとした空気によって避暑地として多くの人々を惹きつけています。かねてから国際避暑地として栄えた中禅寺湖の澄み渡る水面は、涼しいそよ風を運び、豊かな緑が広がる霧降高原では夏の花々が咲き誇り、野鳥のさえずりが響き渡ります。緑が深い中禅寺湖畔では、エゾハルゼミのワシャワシャといった鳴き声が夏の訪れを教えてくれます。また、夏の登拝祭では午前零時に男体山の登山口が開けられ、夜間に登山を楽しみ山頂で御来光を仰ぎ荘厳のひとつときを感じることができます。

ストーリーを伝えるための場所や体験

英国大使館別荘記念公園で避暑地体験



湖上からの英国大使館別荘記念公園

- 実際に大使館別荘として使用されていた中禅寺湖畔の英国大使館別荘記念公園では、本場英国式のアフタヌーンティーと外交官が眺めた湖畔の景色を楽しめます。

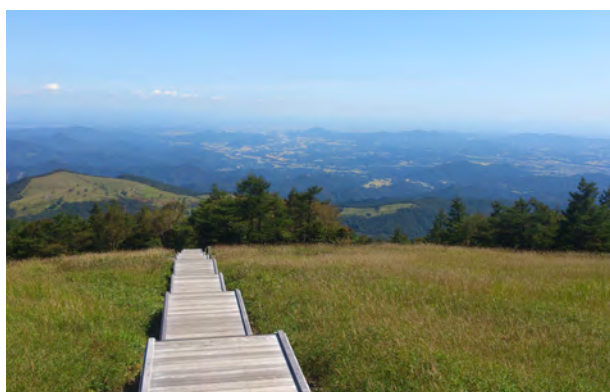


湖畔に向けたテラス



スコーンのセットが味わえる

霧降高原でハイキング

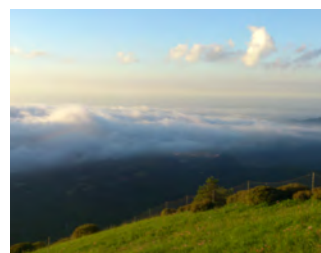


天空回廊からの景色

- 標高1000mをこえる霧降高原は、関東地方の平地に比べ10度ほど気温が低く、夏場はニッコウキスゲをはじめとした様々な花々が咲き誇ります。



ニッコウキスゲが咲く



早朝の霧降高原

標高差が織りなす紅葉の「秋」

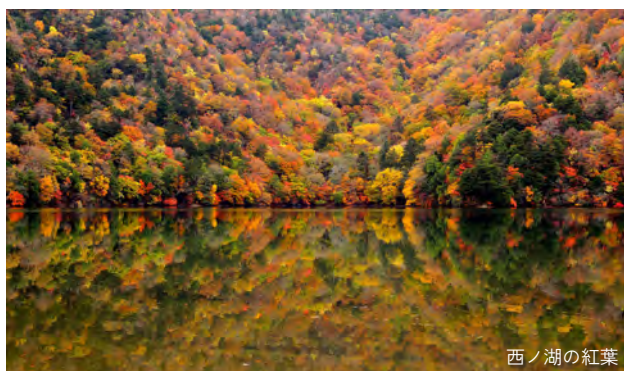


戦場ヶ原の草紅葉

秋の日光は、20種類を超えるカエデ類をはじめとした木々が山々を彩ってくれます。日光の紅葉は、標高差2000mの地形が生み出す自然の芸術といえ、その色は紅、黄、オレンジに加え、針葉樹の深緑、湖の深青と5色で構成されると言われています。特に真っ赤に染まったもみじが光に照らされる景色や、戦場ヶ原や小田代原で見られる、草原が赤や黄に染まる草紅葉が人々を魅了しています。高地から順に色づきが進むことで、長い期間にわたり紅葉を楽しむことができるのも日光の特徴であり、標高差が織りなす紅葉の移ろいは、日光ならではの秋の絶景といえるでしょう。

ストーリーを伝えるための場所や体験

長い期間楽しめる日光の紅葉



西ノ湖の紅葉

- 奥日光エリアでは10月ごろ、中禅寺湖畔の木々が色づき、湖面にも映りこむ美しい紅葉を眺めることができます。



大猷院の紅葉(所有：日光山輪王)

- 日光市街では11月上旬ごろ、日光東照宮、日光山輪王寺、日光二荒山神社の二社一寺付近で美しい装飾の社寺とともに、参道の杉並木と立ち並ぶ落葉樹の紅葉を楽しむことができます。



グラデーションが見事な小田代原の草紅葉

湿原の草紅葉

- 戦場ヶ原・小田代原では9月下旬ごろ、草原が赤や黄色に染まる紅葉、草紅葉を見ることができます。
- 戦場ヶ原では一面に金褐色に、小田代原ではパッチワーク状に草原が染め上げられます。



巨木の森をスノーシューで歩く

日光の冬は、その立地がもたらすほどよい積雪と標高差により、湯元スキー場のパウダースノーを堪能し、氷瀑、しぶき氷、くらげ氷といった様々な氷の芸術が見られます。変化に富んだ地形でスノーシューやクロスカントリースキーなど、様々なウィンターアクティビティを楽しんだり、雪の戦場ヶ原を歩くことでマインドフルネスを体感できます。厳しい寒さを利用した天然氷は、日光の自然と人の営みが織りなす伝統です。都心から乗り換え無しで約2時間と、気軽に訪れられるアクセスの良さも日光の冬を楽しむ魅力のひとつです。

ストーリーを伝えるための場所や体験

雲竜溪谷の氷瀑

- 厳しい寒さの奥日光では、滝が氷結する氷瀑を見ることができます。なかでも雲竜溪谷の氷瀑は高さ100mにも及び、全国的にも有名な氷の絶景として知られています。



巨大な滝が氷柱になる雲竜溪谷

湖畔の幻想的な氷の芸術

- 時に-20℃にもなる冬の中禅寺湖や湯ノ湖では、湖岸の水が凍り付くことでしぶき氷やくらげ氷とよばれる幻想的な景観を目にすることができます。



中禅寺湖畔のしぶき氷

パウダースノーとウィンタースポーツ

- 日本海側からの雪雲が日光白根山を超えることで、ウィンタースポーツに適した水分の少ないパウダースノーを降らせます。



光徳温泉でクロスカントリースキーを楽しむ

日光エリアの代表的な資源



戦場ヶ原

ニッコウキスゲ



湯川
フライフィッシング



湯ノ湖



湯滝

国際避暑地記念施設



中禅寺湖



竜頭滝

湯波、山椒、羊羹など



華嚴滝



二社一寺



フェノロジーカレンダー



WEB掲載ページ》

フェノロジーカレンダーとは、季節ごとの地域の自然や人の営みを表した暦のことです。ここでは、「日光フェノロジーカレンダー」として、季節に応じた数多くの日光の魅力(資源)を一覧として紹介しています。日光は、春夏秋冬どの季節にも数多くの魅力があります。それぞれの季節ならではの日光の魅力をお楽しみください。

カテゴリ	代表的な資源	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		冬			春			夏			秋		
食	湯波・羊羹・志そ巻とうがらし 金谷ホテルの100年カレー ヒメマス料理 英国大使館由来のレシピで作ったスコーン 霧降高原牛・天然氷 チャタケ・日光HIMITSU豚 木の芽サンショウ	天然氷採氷				木の芽サンショウ			戦場ヶ原農場でいちご狩り				水ようかん
		正月祭 (1/4) 節分祭 (節分会) (2月上旬) 弥生祭 (4/13~17) 強襲式 (4/2)				延年の舞 (5/17) 千人行列(春) (5/17) 建立神事 (5/15) 開山祭 (4/25)	観音講 (6/16)	船神頂 (8/4) 男体山登拝祭 (7/31~8/7) 温泉寺大遷尊 (8/8) 日光御室踊り		水神祭 (スワンボートレース) (9/5)	千人行列(秋) (10/16~17) 開山式 (11/11)		
祭り・儀式													
人と歴史	奥日光エリア	英国大使館別荘記念公園 イタリア大使館別荘記念公園 中禅寺湖ボートハウス 東京アンクラインダ アンド・カンツリークラブ 温泉寺の薬師湯	勝道上人と修験道 立木観音 女人禁制の歴史 女人堂 みこ石	六軒茶屋と中宮祠の街並み 西6番園地 光徳牧場 西沢金山跡	日光市街エリアと周辺地域 日光東照宮 日光二荒山神社 日光山輪王寺 慈眼堂 大猷院 滝尾古道 日光御室 日光東照宮 日光二荒山神社 日光山輪王寺 神橋 陽明門 日光街道と鉢石宿 かつて隆盛を誇った山内の僧坊								
	史跡・文化												

地形と自然					季節と風景						
地形・景観	日光連山と火山の恵み		湿原の景観		湖の景観		滝の景観		道と景観		
	● 男体山 ● 以北の最高峰 日光白根山 ● 女峰山 ● 大真名子山 ● 太郎山 ● 濃い硫黄泉 湯元温泉		● ゆっくり流れる湯川 ● 戦場ヶ原の満天の星 ● 湿原の不思議な植生 谷地坊主		● 季節・時間で変化する中禅寺湖の景観 ● 幻想的な湖上に浮かぶ霧の風景 ● 明智平から見るレイクビューと日の出 ● 湧き水で形成される湯ノ湖の景色 ● 成立過程の異なる多くの湖沼		● 四十八滝とも称される多くの滝 ● 華厳滝 ● 北斎も描いた霧降滝 ● 竜頭滝 ● 湯滝 ● 芭蕉も詠んだ裏見滝		● 多様な景色を楽しめるドライビングルート		
アクティビティ	パウダースノーでウィンターアクティビティ スノーシュー・クロスカントリースキー アイススケート		マンサク アカヤシオ トウゴクミツバツツジ シロヤシオ ズミ アズマシヤクナガ オオヤマザクラ コウシンソウ ヤマツツジ 新緑		アカヤシオ クリンソウ ホサキシモツケ ノアザミ ダイモンジソウ アヤメ ニッコウアザミ キオン ノハナショウブ ハクサンフクロ ニッコウキスゲ ハクサンシヤクナガ シラネアオイ マルバダケブキ		奥日光中に広がるトレイルでハイキング 日光連山での本格的な登山 ロードサイクルツーリング 湯元キャンプ場・葛城ヶ原キャンプ場でのキャンプ フライフィッシングの聖地 日光（魚種・場所によって解禁期間は異なります） 湖畔でのカヤック・SUP、水遊び 中禅寺湖畔の大使館跡で避暑地体験		アイススケート		
	奥日光の湿原を守るシカ柵 小田代原の貴婦人（シラカバ） 戦場ヶ原周辺の一面のササの景色						戦場ヶ原の湿原 シロヨメナ ダイモンジソウ ノアザミ ニッコウアザミ キオン ノハナショウブ ハクサンフクロ ニッコウキスゲ ハクサンシヤクナガ シラネアオイ マルバダケブキ 小田代原の草紅葉		紅葉・錦秋の日光		
動物	ツキノワグマ ニホンザル 天然記念物のニホンカモシカ ニホンジカ		冬鳥の来訪、越冬 夏鳥の来訪、繁殖 華厳の滝周辺のイワツバメ カジカガエルの産卵 クロサンショウウオの産卵 オオワシ・オジロワシの来訪		夏鳥の来訪、繁殖 華厳の滝周辺のイワツバメ カジカガエルの産卵 クロサンショウウオの産卵 哺乳類たちの子育て期間		ヒメマスの湖上 ラッティングコール		冬鳥の来訪、越冬		
	冬季に日本海側の影響を受ける湯元温泉 日本海気候と太平洋気候の狭間、標高の違いによって生じる場所による天気の違い		雲竜峯谷の氷の絶景 中禅寺湖のしぶき氷・くらげ氷 マイナス20度の雪と氷の世界 冬の雪景色 湯ノ湖凍結 戦場ヶ原霧氷		残雪期 梅雨の影響が少ない 過ごしやすい気候 霧降高原の雲海 台風の大雨で虹の湖になる小田代原		高原の涼しい夏 小田代原の朝霧		中禅寺湖のしぶき氷くらげ氷 冬の雪景色 湯ノ湖凍結 戦場ヶ原霧氷		
気候											

体験レイアウト

四季

自然

13 ゆったりした時間 リトリート

#朝ヨガ
#夕焼け
#星空

14 動植物の観察

#バードウォッチング
#トレッキング

08 滝の景観

#日光三名瀑
(華厳・霧降・裏見)
+竜頭・湯滝

16 理解

#環境保全
#ボランティア

12 星空

#湯ノ湖
#三本松園地

06 修学旅行再訪

#リピートしやすさ
#自然課題文化の学び

09 ハイキング

#スニーカー軽装
#木道
#本格的な登山

07 食

#羊羹 #山椒
#いちご #マス
#湯葉 #高原牛
#ひみつ豚
#天然氷

11 ガイドプログラム

#登山ガイド
#自然ガイド
#二社一寺

04 祭り

#弥生祭
#千人武者

15 冬の体験

#氷瀑
#パウダースノー
#スノーシュー
#クロスカントリー
#スキー

歴史的な側面の体験

01 《#古代の歴史》

#開山(男体山)
#修験道
#写経・社仏体験
#二社一寺
#世界遺産

02 《#近代の歴史》

#避暑地としての歴史

03 宿泊・長期滞在

#旅館 #温泉
#お酒 #金谷ホテル

05 釣り

#フライフィッシング

10 アクティビティ

#ウォーターアクティビティ
#カヤック
#SUP
#サイクリング

歴史・文化



アクティビティ

日光エリアで 体験してもらいたい **16**の体験

都心からも近い手軽な場所でありながら、
国立公園や世界遺産にも指定された本物の
歴史・文化、自然を体験できる日光で、人生
を変えるような瞬間に出会ってください。

01

歴史的な側面の体験(古代の歴史)

日光は豊かな自然と密接に結びついた山岳信仰や神社の歴史を持ち、調和した自然と文化を体験できる場所です。世界遺産の日光の社寺や弥生祭などの風習は、日光国立公園の歴史を知る上で重要な要素です。また、滝尾古道や化け地蔵など、1200年の歴史を感じる聖地としての魅力もあります。二社一寺だけでなく、古くから続く修験の道を体感してみてください。



関連するサブストーリー

- 1-1 修験道と山岳信仰
- 1-2 自然と調和する歴史と文化の融合
- 1-3 道が育む交流と文化の発展

- 1-6 祭りと伝統が紡ぐ日光の魅力
- 1-9 地域文化を味わう食

more info

日光山内探訪パンフレット(日光市観光協会)



滝尾の路・憾満の路 日光ウォーキングガイド(日光市観光協会)



日光西町まちあるき(日光市役所観光経済部観光課)



02

歴史的な側面の体験（近代の歴史）

明治以降、日光は外交官の避暑地として栄え、調和した自然と文化を体験できる場所です。イタリア・英国大使館別荘記念公園では、当時の避暑地文化を追体験でき、大使館別荘のソファから湖や山々を眺めるひときは特別なものです。



英国大使館別荘記念公園



2階の広縁から
中禅寺湖をのぞむ



館内のカフェで
紅茶やスコーンも
楽しめます

関連するサブストーリー >>> 1-4 信仰と国際交流が織りなす宿と施設
1-9 地域文化を味わう食

3-2 大自然の涼しさを感じる「夏」

more info

英国大使館別荘記念公園



イタリア大使館別荘記念公園



03

宿泊・長期滞在・温泉

金谷ホテルなど古くからある西洋式ホテルでは、和と洋が融合した歴史的な雰囲気を楽しむことができ、日光の歴史を感じながら贅沢な時間を過ごせます。

湯ノ湖畔にある1200年の歴史を誇る湯元温泉では、湯煙が立ち上り、緑色の湯が白濁に変わる様子が見られ、硫黄の香りと共に歴史を感じることができます。

ゆったりした時間、夜の星空、朝の風景を楽しむために、日帰りではなく宿泊して、奥まで日光を満喫してみてください。



金谷ホテル

関連するサブストーリー

1-4 信仰と国際交流が織りなす宿と施設

1-5 温泉と癒しの文化

more info

中禅寺温泉



奥日光湯元温泉



日光温泉



日光の宿ガイド



日帰り温泉マップ
(日光市観光協会)



04

祭り

日光には、世界文化遺産である二社一寺を支える豊かな文化や祭りがあります。特に、弥生祭りや百物揃千人武者行列が重要な役割を果たしています。これらの祭りは、門前の人々の歴史や文化とも深く結びついています。また、男体山の登拝祭りもあり、地域の人々が長年にわたり伝えてきた文化や祭りが息づいています。

日光東照宮

流鏝馬神事
(5/17・10/16)



百物揃千人武者行列
(5/18・10/17)



日光二荒山神社

弥生祭
(4/13～4/17)



各町家体繰出し



名刺交換

男体山登拝大祭
(7/31～8/7)



関連するサブストーリー >>> 1-6 祭りと伝統が紡ぐ日光の魅力

more info

日光二荒山神社ホームページ

祭典行事



日光東照宮ホームページ

祭典行事



日光山 輪王寺 オフィシャルサイト

年間行事



05

釣り

日本のフライフィッシングの発祥地である日光では、歴史や伝統を感じながら、トーマス・グラバーの故郷であるスコットランドを思い起こさせる湯川の流れの中で、自然と一体となったフライフィッシングが楽しめます。ここは時空を超えてスコットランドの雰囲気を感じる場所です。



関連するサブストーリー》》 1-7 異文化が交差した湖と魚の歴史

more info

湯ノ湖・湯川

栃木県奥日光 湯の湖・湯川トラウトフィッシング
(全国内水面漁業協同組合連合会)



中禅寺湖

中禅寺湖漁業協同組合



06

修学旅行再訪

小中学校の修学旅行などで訪れた日光を、大人になって再訪し、その体験を世代を超えて家族で共有してみてください。

日光へは、小中学校の修学旅行が多くの人にとって経験があるかと思います。大人になった今、当時の友人と共に再訪したり、家族と訪れ、幼少期の思い出を家族で共有することで、世代を超えた特別な体験が得られます。



小学校修学旅行

関連するサブストーリー》》 1-8 世代をつなぐ日光の特別な思い出

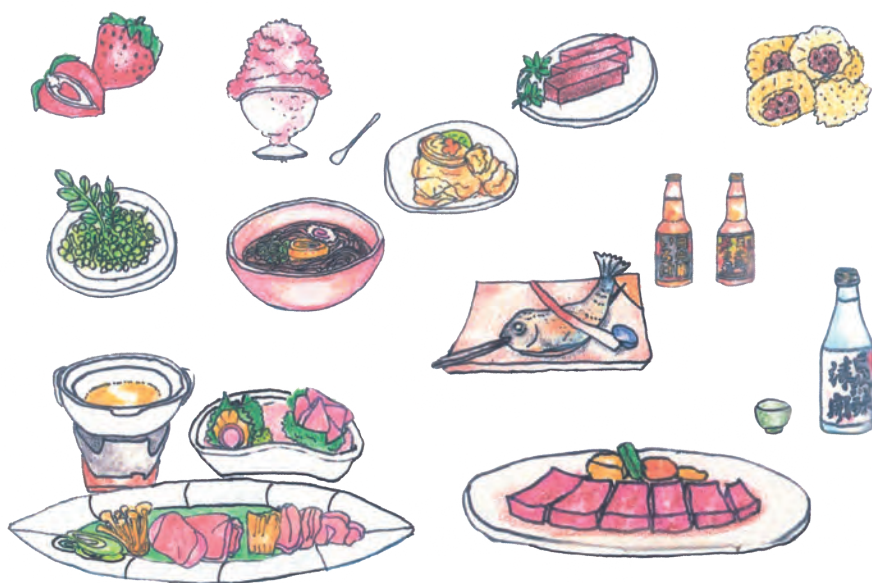
more info

これぞ日光！ てっぱんコース(日光市観光協会)

》》



日光には、歴史や文化的背景を反映した独自の食文化があります。特に、水に関連する名物が多く、ようかん、湯波、ヒメマス、いちご、山椒などが挙げられます。これらの食材を通じて、日光の自然や歴史、文化を感じながら、その土地ならではの味を楽しんでほしいです。



関連するサブストーリー >>> 1-9 地域文化を味わう食

more info

奥日光グルメ情報
(奥日光観光事業振興会)



あじわう、日光。
(日光市観光協会)



Mt.Berry奥日光



日光東飲食物産組合
食べ歩きマップ



日光西町まちあるき
日光西町地区の観光MAP
日光市役所観光経済部観光課



日光門前町公式サイト
日光二社一寺前飲食物産組合



奥日光 中禅寺温泉
飲食物産店組合



まちあるきマップ in 日光 >>



08

滝の景観

日光には、裏見滝、霧降滝、華厳滝、竜頭滝、湯滝など、多くの美しい滝があります。これらの滝は水の流れと高低差によって生まれた景観を楽しむことができ、浮世絵にも描かれている滝もあります。



龍頭の滝



湯滝



華厳滝

霧降隠れ三滝



玉簾滝



丁字滝



マックラ滝

関連するサブストーリー

2-1 火山と水が織りなす風景

2-4 地質と地形が育む多様な景観

2-2 滝と清流が描く自然の芸術

more info

とちぎ旅ネット～栃木の観光旅行情報サイト
華厳滝など6つの滝でリフレッシュ。日光滝めぐりツアー



文化遺産オンライン
諸國龍廻り・下野黒髪山きりふりの滝



09

ハイキング

スニーカーで気軽に楽しめる湖畔や湿原の散策から、男体山などの本格的な登山まで、誰もが楽しめるバリエーション豊かな日光の散策路・登山道が整っています。自然散策やハイキングを通じて、家族や友人と共に素晴らしい思い出を作ることができるでしょう。



関連するサブストーリー

1-8 世代をつなぐ日光の特別な思い出

2-3 自然が描く湿原と草原の物語

2-5 自然環境が支える多様なアクティビティ

3-2 大自然の涼しさを感じる「夏」

3-3 標高差が織りなす紅葉の「秋」

more info

奥日光ガイドマップ(日光市観光協会)

日本語版



英語版



10

アクティビティ

日光では、ハイキングやサイクリング、自然観察、カヤック、SUP、冬のスノーシューやアイスクライミング、スキーなど、多彩な自然体験アクティビティが楽しめます。これらの活動を通じて、自然を観察するだけでなく、学びや感動を得られる深い体験ができ、都会では味わえない新たな発見があります。



トレイルランニング



SUPクルーギング

関連するサブストーリー

1-7 異文化が交差した湖と魚の歴史

2-3 自然が描く湿原と草原の物語

2-5 自然環境が支える多様なアクティビティ

3-1 山肌を花々が彩る「春」

3-2 大自然の涼しさを感じる「夏」

3-3 標高差が織りなす紅葉の「秋」

more info

日光自然ガイド協議会 アクティビティー覧



ガイドおすすめのアクティビティ(日光エリア)



11

ガイドプログラム

ガイドプログラムに参加することで、個人では得られない体験をし、日光についての理解を深めることができます。戦場ヶ原の自然を解説するガイドツアーや、二社一寺の伝道案内によるガイドがあり、奥日光には多くの自然ガイドやアクティビティガイドがいます。さまざまな体験や学びが得られる日光ならではの魅力が深まります。



ネイチャーツアー



あれは二荒山神社の
楼門です！



関連するサブストーリー >>> 2-7 日光で考える、自然と共生する未来へのヒント

more info

あいに行く NIKKO (日光市観光協会)



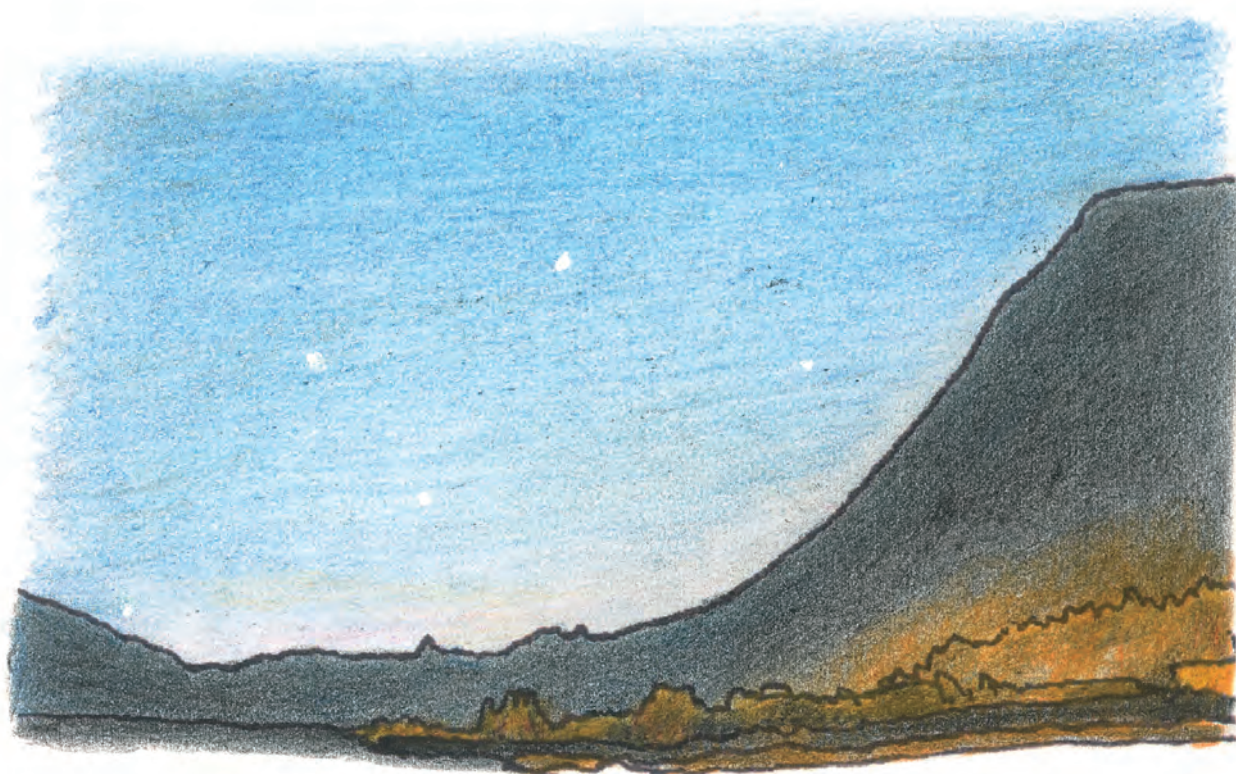
日光自然ガイド協議会



日光国立公園自然ガイド検索



奥日光は標高が高く、周囲に明かりがないため、美しい星空や天の川を楽しむことができます。宿泊して、満天の星空を堪能してほしいです。



関連するサブストーリー >>> 2-8 自然のリズムと星空が紡ぐ癒しの時間

more info

星降る夜の日光(ライトアップ誘客実行委員会)

日本語版 >>



Connection between Nikko and its stars

英語版 >>



13

ゆったりした時間・リトリート

奥日光は、自然の中でリフレッシュできる特別な場所が豊富にあります。大使館別荘で湖畔を眺めながらのんびりしたり、落ち着いたホテルで贅沢な空間を楽しんだり、湖畔からの夕焼けや木漏れ日越しの湖を眺めることで、特別なひとときを過ごすことができます。



中禅寺湖 南岸



湯ノ湖



ホテルから中禅寺湖をのぞむ

関連するサブストーリー

1-4 信仰と国際交流が織りなす宿と施設

2-8 自然のリズムと星空が紡ぐ癒しの時間

1-5 温泉と癒しの文化

more info

日光の宿ガイド



日帰り温泉マップ(日光市観光協会)



14

動植物の観察

奥日光の湿原や森林には豊かな生態系が広がり、色とりどりの植物や多くの動物、野鳥が生息しています。特に、ノビタキやホオアカ、南半球から訪れるオオジシギなどが見られ、鳥たちのコーラスが響く草原は、まさに野鳥のパラダイスです。



ニッコウキスゲ



ソバナ



マルバダケブキ



トネアザミ



クリンソウ



アキノウナギツカミ



コオニユリ



カリガネソウ



コウゾリナ



ツリガネニンジン



ワレモコウ



ズミ

関連するサブストーリー

- 2-3 自然が描く湿原と草原の物語
- 2-4 地質と地形が育む多様な景観
- 2-6 多種多様な野生動物との出会い

- 3-1 山肌を花々が彩る「春」
- 3-2 大自然の涼しさを感じる「夏」
- 3-3 標高差が織りなす紅葉の「秋」

more info

奥日光の花々(日光湯元ビジターセンター)



奥日光の野鳥(日光湯元ビジターセンター)



15

冬の体験

日光の魅力の一つは、冬の自然体験ができることです。日光はアイススケートが人気で、日光霧降スケートセンターなどでアイススケートを家族みんなで楽しめます。ふかふかの雪が積もった静かな森では、クロスカントリースキーやスノーシューもおすすめです。凜とした白い世界の中で、雪と氷を通じて自分と自然を感じることができます。パウダースノーの無音の世界や氷瀑、しぶき氷、雪景色など、冬ならではの美しい自然風景をぜひ楽しんでください。

※雲竜渓谷などは危険を伴う可能性があるため、ガイドツアーへの参加を推奨します。



アイスクライミング



スノーシュー



クロスカントリー

関連するサブストーリー >>> 2-5 自然環境が支える多様なアクティビティ 3-4 氷と雪を楽しみ尽くせる「冬」

more info

ウィンターアクティビティに関するお役立ち情報まとめ
(日光市観光協会)



SNSで自慢したくなる！冬に行きたい日光の絶景スポット11選
(日光市観光協会)



16 理解

日光の美しい風景が形成された理由、歴史的な事実、環境を守るための取組など、日光の様々な側面の理解を深めてみてください。

日光の美しい風景は、歴史的な背景や環境保護の取り組みによって形成されています。地域の自然を守るため、多くの人々が外来植物の除去活動やシカ柵の設置などに尽力しています。特に、全長17kmのシカ柵が戦場ヶ原・小田代原を囲み、貴重な自然を保護しています。また、修学旅行や自然ガイドを通じて、自然への理解が深まっています。市民やボランティアによる外来植物除去活動も継続されており、奥日光の環境保護に寄与しています。



戦場ヶ原木道杭打ち



小田代原シカ柵

関連するサブストーリー》》 2-7 日光で考える、自然と共生する未来へのヒント

more info

奥日光の自然(日光湯元ビジターセンター)

》》



Q 奥日光で魚は釣れるの？

- A** ブルックトラウトを始めとしたマス類を中心に、晩秋にはワカサギも釣る事が出来ます。
釣りが出来るのは、湯ノ湖、湯川、中禅寺湖の3か所。それぞれ対象やルールがありますので、事前にご確認ください。
- もともと、奥日光には魚がいなかったと言われており、明治に入ってからイワナが放され、その後マス類の放流が行われました。なかでもカワマスは、中禅寺湖畔の西六番に別荘を構えていたトーマス・グラバーが、ハロルド・パーレットの協力を得て放流して以後、地域ではパーレット鱒と呼ばれ親しまれて来ました。
- 明治期以降、中禅寺湖畔に各国要人の別荘が並ぶようになると、避暑に訪れた外国人がマス類を対象に釣りを楽しみ、日本におけるフライフィッシングの発祥となりました。
- また、中禅寺湖畔では自ら漁に出て、食事に提供しているお店もあります。
- 近代の先人たちの営みが、今に繋がっているのですね。

参照ストーリー >>> 1-4、1-7、1-9

Q 奥日光に行くとき、天気予報はどこを見たらよいの？

- A** 「日光」で調べると希望する情報が手に入らないかもしれません。郵便番号や地名などで行きたい場所を絞り込んだ方が良さそうです。
- 住人の感覚としては、「日光」で表示されるのは、日光市街地(駅や世界遺産エリア)が多いようです。「奥日光」だと華嚴滝の辺り。
- 同じ奥日光の中でも、華嚴滝の周辺と湯元温泉では天気が異なることも珍しくありません。
- 山に囲まれた奥日光の地形と、気候の境目が影響をしていて、特に冬はその影響が顕著に現れます。
- 情報を上手く組み合わせると、雲海や霧の境目を見られたり、雪のアクティビティを楽しめることもありますよ！

参照ストーリー >>> 2-1、2-4

Q 奥日光の温泉は、泉質が違うの？

- A** 奥日光には、湯元温泉、光徳温泉、中禅寺温泉がありますが、全て同じです。
- 正確には、【含硫黄-カルシウム・ナトリウム-硫酸塩・炭酸水素温泉(硫化水素型)】と表記されますが、茹で卵の匂いがする硫黄温泉です。
- 実は、光徳温泉や中禅寺温泉には温泉が湧出しておらず、湯元温泉から引湯しているのです。初期には、なんと木管をつないでお湯を運んだそうで、今でも山中には当時の木管がひっそりと苔むしています。
- また、湯元の街の一角にある湧出地には硫黄の香る湯気が上がり、水たまりの底からぷくらぷくらと泡が上がるさまは、火山の活動を囁きかけるかのようです。
- 最初に湯を発見した勝道上人は、どのように湯に浸かったのか・・・
- 温泉に浸りながら、往古に思いを馳せるのも、また楽しいものです。
- 市街地や霧降には、異なる泉質の温泉があるので、湯めぐりをしてみるのも面白そうです。

参照ストーリー >>> 1-1、1-5

Q 名物を食べたいのだけれど、何がお奨め？

A マス料理や、湯波、羊羹、いちご、山椒、天然氷などがあります。

門前町とも言える日光市街地では、精進料理にも用いられる湯波が、またお土産として日持ちのした練羊羹が伝統的です。一般的には水羊羹は夏の食べ物というイメージですが、日光では御節料理に入れる冬の食べ物。冷蔵技術が無かった昔は冬にしか食べられないご馳走だったとか。

一方、奥日光地域には近代まで定住者がいなかったのも、食文化の伝統は少ないのですが、明治期に魚類が放たれてからはマスが名産になりました。中でもヒメマスは国内でも分布が限られ、美味しいので人気です。

戦場ヶ原の開拓地では、涼しい夏にいちご狩りを楽しむことも出来ますが、冬にいちごを楽しめるようになったのも、戦場ヶ原の涼しさがきっかけなのです。

日光全域で食べられているけれど、他所の地域ではあまり見かけないのが、山椒。大量の若芽のみを煮付けた山椒の若芽煮は、癖になる一品。家庭独自の味があるので、お気に入りの一品を探してみるのも良いですね。

夏には天然氷のかき氷が人気ですが、冬に清冽な清水を引き込み、天然の冷気で凍らせたものを、氷室で保管して出荷しているもの。

その他にも多くの名品がありますが、いずれも地域の気候風土や歴史と密接に関わり、育まれてきたものです。

参照ストーリー》》 1-1、1-7、1-9、3-2、3-4

Q 宿泊するのだけれど、夜に遊ぶ所はある？

A 都会的な意味合いでは、殆どありません。夜に営業をしているお店さえ稀です。

ですが、もし宿泊日が晴れているなら、宿を出て空を見上げてみてください。出来れば宿を少し離れて、街灯の少ない所へ。

きっとそこには、息を飲むような星空が広がっているはずです。湯ノ湖、戦場ヶ原、中禅寺湖、霧降高原などは人工物も少なく、最適です。

車でお越しならば、ドライブをしてみるのも良いかもしれません。道路脇で様々な野生動物の姿が見られ、ナイトサファリのようになることもあります。

また、夜に限らず、時間を変えて行動するのもお奨めです。

空と湖が茜に染まる中禅寺湖の夕暮れ、眼下に雲海の広がる朝の霧降高原、朝もやの中から貴婦人が現れる早朝の小田代原。

特別な一瞬に出会えることでしょう。

参照ストーリー》》 2-3、2-4、2-6、2-8

Q 紅葉を見たいのだけれど、いつが良い？

A 10月上旬～11月中旬の間なら楽しめます。

白根山などの標高の高い山では9月下旬に始まりますが、比較的手ごろに見られるのは、10月の上中旬頃から。一般的には標高の高い所から、低い所へ色づきが進んでいきます。日光駅付近が540m程、車で行ける最高地点の金精トンネル付近で1850m程と、高低差が大きいので、進むごとに季節が移ろうのが分かるでしょう。標高差が200mある湯ノ湖と竜頭滝の見頃が同じ時期になるのは、奥日光の地形が織りなす妙。

中禅寺湖に飛び出す八丁出島は植生が多彩で、まるでパレットのようです。

色づくのは木々ばかりではなく、小田代原で見られるモザイク模様の草紅葉や、黄金に輝く戦場ヶ原の葦原なども、また素晴らしいものです。

ドライブやロープウェー、遊覧船から楽しむのも良いですが、トレッキングで色づく木々の森を歩いたり、SUPやカヤックで湖上から愛でたりと、様々な楽しみ方が出来るのも、日光の紅葉の素晴らしさと言えるでしょう。

参照ストーリー》》 1-3、2-2、2-3、2-4、2-5、3-3

日光エリアをさらに好きになる資料・文献集

【参考】日光国立公園指定90周年を迎えて(雑誌国立公園、2024,11月号より抜粋・加筆)

日光国立公園管理事務所 所長 速水香奈

1. 日光国立公園の概要

日光国立公園は、昭和9年12月4日に指定された我が国の最初期の国立公園の1つであり、指定理由は「日本式風景の典型と東照宮等の人文景観」です。公園区域は栃木県(日光市、那須町、那須塩原市、矢板市、塩谷町)・群馬県(片品村)・福島県(下郷町、西郷村)の3県・8市町村にまたがり、その大半は、那須火山帯に属する山岳地です。北関東最高峰の白根山(2,578m)、古くからの信仰の山として名高い男体山(2,486m)、今なお火山活動が活発な茶臼岳(1,917m)などの2,000m級の山々を有しており、加えて、山麓に広がる高原、火山活動に起因する湿原や湖沼、壮大な瀑布、紅葉の美しい渓谷などの多様な自然景観が広がります。また、日光湯元温泉、那須七湯、塩原温泉、鬼怒川温泉等多くの温泉を有し、古くからの湯治場としての歴史も持っています。日光国立公園は、これらの日本を代表する景観要素がギュッと詰め込まれた箱庭的な公園とも称されています。

さらに、古くは修験の地としての歴史をもち、世界文化遺産にも登録された東照宮を初めとした神社仏閣も多くあります。また、文豪や歴代の皇室、外交官に愛された避暑地でもあり、特に中禅寺湖周辺には大使館別荘等として利用されてきた歴史的建造物も多く、これらと周囲の自然景観とが見事に調和し、美しい景観を生み出しています。

コロナ禍前の令和元年の年間入り込み客数は約1904万人、訪日外国人利用者は約28万人です。首都圏からの交通の便が良いことから、古き時代より国内外問わず多くの観光客を魅了し続けており、首都圏の修学旅行先としても人気です。



2. 指定の経緯

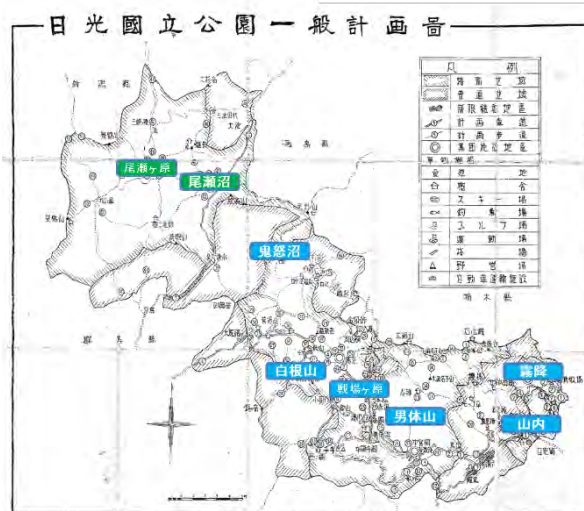
日光国立公園指定までの経緯において外せないのは、日光地域の歴史と国立公園のはじまりの地であることでしょう。

日光地域の山々は、奈良時代末期に勝道上人が男体山山頂を極めてから、山岳信仰と修験道の霊場でもありました。日光二荒山神社、日光東照宮、日光山輪王寺(以下、「二社一寺」という)が有名ですが、男体山の麓の日光二荒山神社中宮祠、中禅寺湖畔にある日光山中禅寺など、日光地域各地に勝道上人の足跡を見ることができます。また、これらは日光国立公園の特別保護地区又は第1種特別地域に指定され、厳重に保護されています。

これらの寺社仏閣を中心とした自然と調和した人文景観が、実は「国立公園のはじまりの地」でもありました。昭和6年、国立公園法が帝国議会に提出され、昭和9年には最初期の国立公園が誕生しましたが、その20年前にあたる明治44年、二社一寺がある山内エリアを中心に、史跡・名勝を含む日光山の積極的な国家の保護を求める「日光を帝国公園となるの請願書」が、日光町(現・日光市)より帝国

議会に対し提出されました。この請願書は議会に採択され、全国でも初めてとなる国立公園の設置運動が開始されました。幾度の請願の後、昭和5年には、国立公園制度創設に向けた国の方針が明らかになりました。同時期に「栃木県国立公園協会」が組織されていますが、日光、那須、塩原などの町村や東武鉄道などの民間事業者も参加しており、当初より、地域の要望としては、日光地域にとどまらずに、那須・塩原地域さらには尾瀬を含めた国立公園化を目指していたことがわかります。

昭和9年12月4日に日光、尾瀬、奥鬼怒地域が含まれる形で日光国立公園は誕生しました。その後、昭和25年9月22日の拡張の際に、那須、甲子、塩原、藤原、栗山、足尾地域が加えられ、平成19年8月30日には、尾瀬国立公園誕生により尾瀬地域が分離し、現在に至ります。



昭和25年分割前の日光国立公園一般計画図

3. 日光国立公園の“全国第1号”

日光国立公園には、国立公園行政に関わる多くの第1号が存在します。

①レンジャー第1号

湯元集団施設地区が厚生省所管地になったことを契機に、昭和28年、所管地を管理する現地駐在の国立公園管理員が日本で初めて湯元地区に配置されました(同時期に上高地等にも配置されています)。なお、昭和39年には日本で初めて同地区にビジターセンターが整備されました。

②国民保養温泉地第1号

今から約1200年前に勝道上人により開湯された湯治場でもある日光湯元温泉は、昭和29年、日本で初めて国民保養温泉地の第1号として指定されました(同時期に酸ヶ湯温泉、四万温泉も指定されています)。

③自然公園大会の第1回開催地

昭和39年、奥日光の光徳地区において、第1回自然公園大会が開催されました。光徳地区は、かつては野営場や国民宿舎等がある宿泊基地だったのです。

④自然研究路第1号

昭和33年に整備された塩原自然研究路は、日本で初めて自然研究路として整備された遊歩道として親しまれています。新湯から新湯富士や大沼公園を抜け塩原ビジターセンターまで道が続いています。

4. 保護の歴史と現在の取組

(1)外来植物対策

現在は特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウの群落が、昭和42年頃になると、戦場ヶ原周辺で見られるようになりました。昭和53年に発行された栃木県による「日光戦場ヶ原湿原の植物」においても、戦場ヶ原からの駆除が急務との指摘がなされています。昭和42年には、関係機関による小規模な除去活動が始まり、昭和51年には栃木県や自然保護団体等による大規模な除去作戦が始まりました。現在は、日光市が主体となり、一般公募のボランティアによる除去活動も続いています。

戦場ヶ原周辺では、日光パークボランティアによるオオハンゴンソウの駆除活動が長年継続されており、蔓延阻止に大きな役割を果たしていますが、外来植物は一度蔓延すると根絶するには非常に多くの時間と労力と費用がかかります。そのため、他地域においては、民間資金の獲得や企業との連携により、資金と人材の循環を生み出す取組も実施されています。

例えば、那須の観光名所である八幡ツツジ園地においては、地域のNPO団体による民間の助成金を活用したボランティア活動や企業の取組(顧客を対象とした活動プログラムの提供)との連携により、オオハンゴンソウ駆除を行っています。

(2)ニホンジカ食害対策

戦場ヶ原湿原のシカ対策は、2000年代から保全対策の中心として実施されています。奥日光には、シカの食害が問題となる以前よりシカは生息していましたが、昭和59年の大雪によりシカが大量死したことを最後に、昭和60年代から奥日光におけるシカの生息数が急激に増加し、植生被害が顕在化しました。日光白根山においては、シラネアオイをはじめとした高山植物が減少し、戦場ヶ原、小田代原においても湿原植物の減少、ウラジロモミの立ち枯れ等が見られました。

平成5年には栃木県が白根山五色沼にシラネアオイを保護するため電柵を設置し、平成6年には栃木県シカ保護管理計画(1期計画)策定しました。その後、シカの個体数調整やモニタリング調査が開始されています。平成9年には栃木県が小田代原22.5haに電気柵を設置し、平成13年には環境省により、戦場ヶ原全域870haを囲う大規模シカ柵の設置が行われました。現在も、定期的なモニタリングや柵内捕獲、柵への侵入防止に向けた柵の改良等が続けられています。

また、平成26年には日光地域の対策における各機関の相互連携を図ることを目的に、「日光シカ対策共同体」という組織が立ち上がり、日光国立公園管理事務所、日光森林管理署、栃木県、日光市の担当者レベルでの協力・連携体制が構築されています。年1回の情報交換会のほか、許認可の調整、鬼怒沼におけるシカ柵設置等の共同作業、各機関の取組への人的協力や備品貸出等が行われ効果的に機能しています。

5.利用の現状と100周年に向けて

日光国立公園における利用施設のうち、日光湯元や那須平成の森等の環境省所管地の利用拠点施設、戦場ヶ原や茶臼岳等の特に重要なエリアの歩道は環境省で整備されていますが、それらを除くと、主に栃木県により執行されてきました。国立公園全域の山岳域の歩道・園地のほか、特に中禅寺湖畔では日光自然博物館、英国・イタリア大使館別荘記念公園含む園地・歩道整備が進められ、施設面においても、栃木県が日光国立公園の利用を牽引してきたと言えるでしょう。

日光国立公園の利用の現状や課題は地域毎に異なりますが、共通していることは、国内外問わず日帰り客が多いという点や紅葉をはじめとした特定の時期に利用が集中するという点等が挙げられます。実際、日光地域においては、訪日外国人客は好調であるものの、その多くが東京を基点とした日帰り客であり、二社一寺を主な観光目的としていることから、山内エリアと比較した奥日光(いろは坂より上)の利用者は、その約3割ともされています。

平成31年からは日光国立公園の満喫プロジェクトが開始され、宿泊・滞在観光の促進や閑散期を中心とした誘客の促進にむけ、行政・民間問わず各主体によりソフト面の取組も進められてきました。現在は、各地域の自然と歴史の関係やそのストーリーを、より深く理解し、感動体験を創出するため、ガイド認定制度の創設、アドベンチャートラベルに向けたコンテンツづくり、インタープリテーション全体計画の策定、地域間や異業種交流等が進められています。

日光国立公園では各主体が、それぞれ熱心に取組を進めているものの、各主体同士の横の連携が少なく、地域としてのブランド力や情報発信も十分とは言えません。日光国立公園指定100周年に向け

ては、上記の取組を通じ、日光国立公園の価値や取組を共有し、大きな柱のもと、地域や個がつながり連携し合い、総力戦に向けた体制・計画づくりや取組の実践を進めていく必要があります。

1934年	(昭和9)	日光の観光客が70万人に
1935年	(昭和10)	栃木県が「日光国立公園施設計画案」を作成
1938年	(昭和13)	特別地域、制限緩和地区(普通地域に相当)保存地区(特別保護地区に相当)等、国立公園の保護計画を決定
1940年	(昭和15)	国が「日光国立公園一般計画案」を作成
1941年	(昭和16)	武田久吉「尾瀬と日光」を出版
1946年	(昭和21)	戦場ヶ原に17戸が入植、開拓を始める
1949年	(昭和24)	尾瀬保存期成同盟結成 NHKラジオで「夏の思い出」放送
1950年	(昭和25)	那須、塩原、鬼怒川等を日光国立公園区域として拡張、公園面積は143,590ha
1951年	(昭和26)	湯元から中宮祠へ温泉湯導管を敷設
1952年	(昭和27)	尾瀬の福島区域で木道敷設
1953年	(昭和28)	日本で初めて国立公園管理員(レンジャー)を湯元に配置
1954年	(昭和29)	いろは坂有料道路が開通
1956年	(昭和31)	湯元に県下初のスキーリフトが完成
1959年	(昭和34)	光徳で第1回国立公園大会が開催
1964年	(昭和39)	全国初の「日光湯元ビジターセンター」開館、郵便局等が入る 尾瀬沼ビジターセンターが開設
1965年	(昭和40)	第2いろは坂、金精有料道路完成
1966年	(昭和41)	湯元公共下水道終末処理場が完成 尾瀬アヤマメ平で湿原回復事業開始
1970年	(昭和45)	歌ヶ浜の埋め立て工事が開始
1971年	(昭和46)	尾瀬の車道計画(三平下～沼山峠)を廃止
1972年	(昭和47)	尾瀬ゴミ持ち帰り運動始まる
1976年	(昭和51)	戦場ヶ原の帰化植物(オオハングンソウ)除去活動開始
1978年	(昭和53)	調査報告書「日光戦場ヶ原湿原の植物」刊行
1984年	(昭和59)	大雪により大量のシカが餓死し、中禅寺湖が凍結
1986年	(昭和61)	美化清掃等公園管理全般にわたる活動を行う 「日光パークボランティア」と、利用者に自然解説を行う 「尾瀬自然解説ボランティア」が発足、活動を始める
1991年	(平成3)	中宮祠に日光自然博物館が開館
1992年	(平成4)	水質浄化のため湯ノ湖のしゅんせつ工事開始
1993年	(平成5)	奥日光の市道1002号線(赤沼下～小田代原～千手ヶ浜)が環境保全のため車両全面通行止め、 低公害のシャトルバスを運行
1994年	(平成6)	日光湯元ビジターセンターが建替
1996年	(平成8)	尾瀬の入山者が65万人でピークに
1998年	(平成10)	シカの食害を防ぐため、小田代原に電気柵を設置
1999年	(平成11)	日光の二社一寺(二荒山神社、輪王寺、東照宮)の建造物及び周辺区域がユネスコの 世界遺産(文化遺産)に登録される
2000年	(平成12)	イタリア大使館別荘記念公園を整備
2001年	(平成13)	戦場ヶ原の周囲にシカ柵を設置。これらにより湿草原の花復活
2005年	(平成17)	「奥日光の湿原(湯ノ湖、湯川、戦場ヶ原、小田代原)」および本州最大の湿原「尾瀬」が ラムサール条約湿地に登録され、湿原の保全と賢明な利用を前進させることになった
2007年	(平成19)	尾瀬エリアが日光国立公園から分離、会津駒、田代帝釈等の区域を加えて、面積37,222haの 尾瀬国立公園として独立
2010年	(平成22)	市内の自然ガイド有志が「日光自然ガイド連絡会」を設立
2012年	(平成24)	国立公園絵画80点が国立公園協会から小杉放菴記念日光美術館寄贈
2016年	(平成20)	英国大使館別荘を整備
2020年	(令和2)	日光市内のガイド事業者が「日光自然ガイド協議会」を設立

関連URL

● 栃木県ホームページ

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/nikkonationalpark.html#nationalpark>



● 環境省 日光国立公園ホームページ

<https://www.env.go.jp/nature/nationalparks/list/nikko/>



ウェブメディア

● 日光市公式観光WEB（日光市観光協会）

▶ 《日本語》日光旅ナビ

<https://www.nikko-kankou.org/>



▶ 《英語》See, hear, feel Nikko | Nikko Official Guide

<https://www.visitnikko.jp/en/>



▶ 《中国語(繁体字)》日光・鬼怒川官方旅遊指南 | 日光市観光協會

<https://nikko-travel.jp/fanti/>

※主な使用地域：台湾、香港、マカオ



▶ 《中国語(簡体字)》日光・鬼怒川官方旅游指南 | 日光市観光协会

<https://nikko-travel.jp/jianti/>

※主な使用地域：中国本土、シンガポール、マレーシア



● 奥日光観光事業振興会【公式】(@discover_okunikko)・Instagram

https://www.instagram.com/discover_okunikko/



● 奥日光湯元温泉旅館協同組合

<https://www.nikkoyumoto.com/>



● 世界遺産オンライン 日光の社寺(文化庁 文化遺産オンライン)

https://bunka.nii.ac.jp/special_content/hlink8



● ラムサール条約登録(日光市)

<https://www.city.nikko.lg.jp/soshiki/6/1031/2/2/1/1593.html>



● 奥日光清流清湖保全協議会

<https://www.city.nikko.lg.jp/material/files/group/32/yunokoqa2.pdf>



● 栃木県／「奥日光 美しき水の世界へ」(奥日光清流清湖PRマンガ)

https://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/kouhou/okunikkou_seiryuseiko/27seiryuseiko_manga.html



書籍

- 日光避暑地物語(福田和美著)

- 日光近代学事始(栃木県歴史文化研究会・近代日光史セミナー編)

ガイドマップ

- パンフレットダウンロード(日光市観光協会)

<https://www.nikko-kankou.org/pamphlets>



- 奥日光ガイドマップ(日光市観光協会)

《日本語版》

http://www.nikko-kankou.org/storage/pamphlet_pdf/20231017165414_nikko_okuNikkoGuide.pdf



《英語版》

[http://www.nikko-kankou.org/storage/pamphlet_pdf/20240905140534_2021_0600%E5%A5%A5%E6%97%A5%E5%85%89%E3%83%8F%E3%82%A4%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%9E%E3%83%83%E3%83%97\(B2\)\(%E8%8B%B1%E8%AA%9E\)WEB_A.pdf](http://www.nikko-kankou.org/storage/pamphlet_pdf/20240905140534_2021_0600%E5%A5%A5%E6%97%A5%E5%85%89%E3%83%8F%E3%82%A4%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%9E%E3%83%83%E3%83%97(B2)(%E8%8B%B1%E8%AA%9E)WEB_A.pdf)



- ハイキングコース(日光湯元ビジターセンター)

<http://www.nikkoyumoto-vc.com/hiking/>



- 日光山内探訪パンフレット(日光市観光協会)

http://www.nikko-kankou.org/storage/pamphlet_pdf/20240624124549_%E6%97%A5%E5%85%89%E5%B1%B1%E5%86%85%E6%8E%A2%E8%A8%AA.pdf



- 日光ウォーキングガイド(日光市観光協会)

http://www.nikko-kankou.org/storage/pamphlet_pdf/20240208114010_%E6%97%A5%E5%85%89%E3%82%A6%E3%82%A9%E3%83%BC%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89.pdf



- 日光観光マップ(日光市観光協会)

http://www.nikko-kankou.org/storage/pamphlet_pdf/20240208104847_%E6%97%A5%E5%85%89%E8%A6%B3%E5%85%89%E3%83%9E%E3%83%83%E3%83%97.pdf



その他

- NIKKO MaaS(日光マース)

<https://www.tobu-maas.jp/lp/nikko-maas>



- 日光路線バス(東武バス)

<https://www.tobu-bus.com/pc/area/nikkou.html>



- 中禅寺湖遊覧船クルージング

<https://www.chuzenjiko-cruise.com/>



- 奥日光Eバイクトリップ

<https://ebike-okunikko.com/>



索引

— ア行 —

アイスクライミング	46
あいに行く NIKKO	47
アカヤシオ	28
明智平	19
明智平展望台	19
あじわう、日光	43
アニマルトラッキング	24
アフターヌーンティー	29
アヤマ	21、28
イタリヤ大使館別荘記念公園	12、38
イチゴ	43、54
イチゴ狩り	54
いろは坂	9、11、19、22
イワナ	53
馬返し	11、19
ウラジロモミ	57
裏見滝	20、44
雲海	22、53、54
雲竜渓谷	31
英国大使館別荘記念公園	12、29、38
オオジシギ	50
オオハンゴンソウ	57、58
オオルリ	24
奥日光ガイドマップ	45
奥日光グルメ情報	43
奥日光中禅寺温泉飲食物産店組合	43
奥日光ナイトサファリ	24
奥日光の自然	52
奥日光の花々	50
奥日光の野鳥	50
小田代原	21、30、52、54
小田代原の貴婦人	21、54

— カ行 —

ガイドおすすめのアクティビティ	46
ガイドツアー	25、47
外来生物	56
カエデ	30
かき氷	17、54
葛飾北斎	20
カヤック	23
気候の境界線	22
キスゲ平	22
霧降隠れ三滝	20
霧降高原	22、29、54
霧降高原牛	17
霧降滝	20、44
草紅葉	30、54
くらげ氷	31

クロスカントリースキー	31、51
華厳滝	19、20、32、44、53
光徳温泉	53
紅葉	19、27、30、54
国際避暑地記念施設	12、32
国民保養温泉地第1号	56
国立公園	3、4、10、55、56、57
国立公園のはじまりの地	56
これぞ日光！てっぱんコース	42
金精トンネル	54

— サ行 —

サイクリング	46
SUP	23、46
山岳信仰	9、10、37、55
山椒	32、43、54
三本松園地	26
シカの侵入防止柵	25、52、57
四十八滝	20
志そ巻き唐辛子	17
しぶき氷	31、51
修学旅行	16、25、42
修験道	8、9、11、17、37、55
勝道上人	8、9、10、13、53、55、56
諸國滝めぐり・下野黒髪山きりふりの滝	44
シラカバ	21
シラネアオイ	28、57
シロヤシオ	28
スノーシュー	23、31、46、51
ズミ	23、28
世界文化遺産	10、16
全国内水面漁業協同組合連合会	41
戦場ヶ原	8、15、16、18、26、30 31、32、47、52、54

— タ行 —

第1回自然公園大会	56
滝尾古道	37
滝尾の路・憾慢の路 日光ウォーキングガイド	37
玉簾滝	20、44
中禅寺温泉	39、53
中禅寺湖	12、13、15、17、20、23 26、29、31、32、53、54
中禅寺湖漁業協同組合	41
中禅寺立木観音	9
丁字滝	20、44
ツキノワグマ	24

釣り	41、53
低公害バス	24
天気予報	53
天然氷	17、54
東京アンクリング・アンド・カンツリークラブ	12
トウゴクミツバツツジ	28
トーマス・グラバー	12、41、53
徳川家康	8、10、14
トレッキング	23

— ナ行 —

男体山	9、10、18、19 21、23、29、45
男体山登拝祭	9、29、40
二社一寺	8、10、12、30、32 37、47、55、57
西六番園地	12、53
日光HIMITSU豚	17
日光温泉	39
日光金谷ホテル	12、39
ニッコウキスゲ	22、28、29、32
日光国立公園	2、3、10、37、55、56、57
日光国立公園自然ガイド検索	47
日光五名瀑	20
日光山温泉寺	13
日光山中禅寺	9
日光山内探訪パンフレット	37
日光山輪王寺	8、10、30、40
日光シカ対策共同体	57
日光市観光協会	37、39、42、43 45、47、49、51
日光自然ガイド協議会	46、47
日光自然博物館	4、24、57
日光白根山	28、31、54、57
日光杉並木	11
日光電気精銅所	14
日光東照宮	8、10、11、30、40
日光西町まちあるき	37、43
日光の社寺	10、16、37
日光の宿ガイド	39、49
日光東飲食物産組合食べ歩きマップ	43
日光二荒山神社	8、9、10、30、40
日光門前町	43
日光湯元温泉	13、39、55
日光湯元ビジターセンター	25
日光連山	9、18
日光和楽踊り	14
ニホンカモシカ	24
ニホンザル	24
ニホンジカ	24
日本酒	17
女人堂	9
ノアザミ	21
ノビタキ	24、50

— ハ行 —

バードウォッチング	24
パーレット鱒	53

ハイキング	23、29、45、46
パウダースノー	31、51
ハクサンフウロ	28
化け地蔵	37
鉢石町	12
八丁出島	54
花家体	14
ハルゼミ	29
パロルド・パーレット	53
半月山展望台	19
日帰り温泉マップ	39、49
氷室	54
ヒメマス	15、17、43、54
百物揃千人武者行列	14、40
標高差	19、22、27、30、54
氷瀑	31
船禅頂	9
フライフィッシング	15、32、41、53
ブルックトラウト	15、53
ホオアカ	50
ホザキシモツケ	21、28
星空	26、48、54
星降る夜の日光	48

— マ行 —

Mt.Berry奥日光	43
鱒のソテー	17
まちあるきマップin日光	43
松尾芭蕉	20
マックラ滝	20、44
マントルピース	12
ミソサザイ	24

— ヤ行 —

ヤシオマス	17
弥生祭	14、37、40
湯川	15、32、53
湯滝	20、32、44
湯導管	13
湯ノ湖	20、26、31、32、39、53、54
湯波	17、32、43、54
湯元温泉	23、53
湯元スキー場	31
羊羹	17、32、43、54

— ラ行 —

竜頭滝	20、32、44
レンゲツツジ	23
レンジャー第一号	56
路面電車	11

— ワ行 —

ワカサギ	53
若芽煮	54
ワタスゲ	23、28

奥まで日光を好きになるストーリー集

日光地域インタープリテーション全体計画

Version.1(2025年5月15日版)

製作者：奥まで日光を好きになるストーリー集づくり 地域事務局
環境省日光国立公園管理事務所(窓口)

協力：奥日光地域づくり住民協議会
日光国立公園満喫プロジェクト 日光エリア分科会
公益社団法人日本環境教育フォーラム
一般社団法人日本インタープリテーション協会

イラスト：前橋 亘子

写真提供：北山 建穂 中禅寺立木観音 日光自然博物館 小西ホテル
Ametsuchi 日光国立公園管理事務所 他

資料提供：日光市立日光図書館



奥まで日光を好きになるストーリー集づくり 地域事務局

奥日光小西ホテル	安倍 輝行
奥日光地域づくり住民協議会／株式会社日光アカデミー日本両棲類研究所	大澤 由香
奥日光地域づくり住民協議会／奥日光ゲストハウスJUN	金谷 武尊
栃木県環境森林部自然環境課	菅野 真生
奥日光インフォメーションセンター	鈴木 隆
東武鉄道株式会社 経営企画本部	杉本 洋輔
Ametsuchi	星野 晃宏
奥日光地域づくり住民協議会／有限会社龍頭之茶屋	室根 靖史
One Play-it (ワンプレート)	室町 直
株式会社日光自然博物館／日光自然ガイド協議会	森田 孝道
環境省日光国立公園管理事務所	速水 香奈・大森 健男・君島 由佳